



新潟大学
NIIGATA UNIVERSITY

マイナー・プログラム履修ガイド

2025

令和7年度 マイナー履修日程

第1学期

ガイダンス	4月7日(月)、8日(火)
第1ターム マイナー履修登録期間	4月1日(火)～4月30日(水)
第2ターム マイナー履修登録期間	5月30日(金)～6月30日(月)
マイナー修了認定(9月期)申請期間	7月1日(火)～7月31日(木)

第2学期

ガイダンス	10月1日(水) 予定
第3ターム マイナー履修登録期間	9月20日(土)～10月31日(金)
第4ターム マイナー履修登録期間	11月25日(火)～12月31日(水)
マイナー修了認定(3月期)申請期間	12月1日(月)～12月26日(金)

目 次

1. 新潟大学のメジャー・マイナー制について

(1) はじめに	2
(2) 新潟大学のメジャー・マイナー制とは?	2
(3) マイナー・プログラムの種類	3
(4) メジャー・マイナー制を支えるアカデミック・アドバイザー	4
(5) マイナーを学ぶメリットは?	5

2. マイナー・プログラム履修開始から修了証授与までの流れ..... 6

3. マイナー・プログラムの履修方法

(1) 「NICEプログラム履修ガイダンス」	7
(2) マイナー・プログラムの履修登録	7
(3) 授業科目の履修登録	9
(4) マイナー・プログラムの修了認定と修了認定申請	9
(5) 学務情報システムから修了認定申請を行う方法	10

4. 令和7年度 マイナー・プログラム一覧 15

5. マイナー・プログラムの紹介..... 16

6. アカデミック・アドバイジングについて

(1) アカデミック・アドバイジングとは?	60
(2) 「学修相談」相談場所・相談受付時間	60

7. よくある質問FAQ..... 61

メジャー・マイナー重複可否一覧表	68
------------------------	----

新潟大学マイナー・プログラムに関する規則	70
----------------------------	----

問い合わせ先・案内図	73
------------------	----

1. 新潟大学のメジャー・マイナー制について

(1) はじめに

皆さんは、自分の興味のある学問を深めようと新潟大学に入学されたと思います。人文科学、社会科学、自然科学、医歯学など、それぞれの学問分野を真剣に学ぶことは、皆さんの知的好奇心を満たすだけでなく、社会に出てからの考え方や行動の核を作っていくことにつながります。

その上でもう少し社会に目を向けてみましょう。たとえば、自治体で行政に携わり、政策を立案するときには、その根拠となるデータを解析する必要があります。企業で技術職・研究職として働き、技術的に優れた製品を開発したとしても、それが必ずしも消費者に受け入れられるとは限りません。ですから、マーケティングやゲーム理論、市場調査の方法を学ぶことも重要になってきます。また、医療現場で働く場合には、当然、高度な知識や技術が求められますが、同時に、相手の人生に想いを馳せ、困難な状況に寄り添うための哲学や倫理学が力になるかもしれません。このように、社会には一つの学問領域だけではとらえきれない事象があります。言い換えれば、たくさんの学びの楽しさに満ちていると考えることもできるでしょう。

新潟大学には、総合大学としての豊富な教育資源があります。そこでわたしたちは、学生の皆さんが、自分の学部の特長分野（メジャー）だけでなく、学部を越えたメジャーとは異なる分野（マイナー）も学ぶことのできるしくみを作りました。また、アカデミック・アドバイザーによるメジャー・マイナー制による学生の学びを支援する体制も整えています。このような取り組み全体を「全学分野横断創生プログラム（Niigata University Interdisciplinary Creative Education Program）」と命名しました。通称NICEプログラムです。

NICEプログラムにおけるメジャーとマイナーの学びを通して、皆さんの大学生活が学びの喜びで満ちたものになることを願っています。

(2) 新潟大学のメジャー・マイナー制とは？

新潟大学の全学の理念は「自律と創生」です。「自律」は自分自身で立てた規範に従って行動すること、「創生」は新たなものを作り出すことを意味します。新潟大学のメジャー・マイナー制はこの全学の理念を体現した、他の大学にはない特徴をもっています。

メジャーとは自分の学部、あるいは学位プログラムで学ぶ専門分野です。マイナーとはメジャーとは異なる分野です。皆さんは入学を希望する学部の試験を経て、新潟大学に入学しました。入学した学部では、2年次にどの学位プログラムを専攻するのかが決まり、卒業に向けて本格的にメジャーを学び始めることになります。なお、推薦入試による入学者については、入学時に決定している場合があります。新潟大学にメジャー・マイナー制が導入される前は、専攻したメジャーを突き詰めて専門性を深めていくことが一般的で、選択肢が限られていました。メジャー・マイナー制

の導入により、「自律」的にメジャーとマイナーを両立して学ぶ選択肢が増えました。また、メジャーとマイナーの学びを通して得られた分野を横断できる複眼的視点によって、新たなものを「創生」できる資質・能力を得られるようになりました。



上の図は、新潟大学の学位プログラムとメジャー・マイナーの関係性を示したものです。マイナーとして修得した単位数は、大学での卒業認定単位数に組み込むことができるため、無理なくメジャーとの両立を図ることができます。令和6年度10月現在、延べ3000人の学生（入学者では約1/3）がマイナーの学びに取り組んでいます。

(3) マイナー・プログラムの種類

マイナーとは、メジャーとは異なる分野を意味します。マイナー・プログラムとは、メジャーとは異なる分野を学ぶための体系性を備えた教育プログラムを意味します。新潟大学では49のマイナー・プログラムを提供しています。15ページのマイナー・プログラム一覧をご覧ください。

マイナー・プログラムの種類は「パッケージ型マイナー」と「学修創生型マイナー」の2つです。どちらを選ぶかによって、マイナー・プログラムとしての修了単位数や科目選択の仕方などが異なりますので、順番に見ていくことにしましょう。

1) パッケージ型マイナー

すでに自分の興味のある分野やテーマが決まっている人向けのマイナー・プログラムです。「パッケージ型マイナー」は、履修すべき授業科目と修了要件が定められています。選択した「パッケージ型マイナー」の修了要件を皆さん自身で確認しながら、科目リスト内の授業科目を自分で計画的に履修していくことになります。どの「パッケージ型マイナー」が自分の学びたい分野なのかがはっきりわからない場合や、「パッケージ型マイナー」での学びをより深めたい場合には、「分野横断デザイン」を受講してください。パッケージ型マイナーの詳細は、NICEプログラムWEBサイト（P73 URL参照）の「マイナー・プログラム一覧」で確認してください。

2) 学修創生型マイナー

「パッケージ型マイナー」と異なり、皆さんが自分で新たに作ることができるマイナー・プログラムです。皆さんが理解しやすいように、このマイナーの具体的な履修の流れを説明していきます。

最初に「学修創生型マイナー」必修科目の「分野横断デザイン」を受講します。この授業の中で、自らの興味・関心に基づいた探究課題を設定し、その課題解決ができる、または取り組むことのできる資質・能力を養うための授業科目を、12単位以上分を自ら選択し、「マイナー学修デザイン」を作成します。次に、作成した「マイナー学修デザイン」に記載した授業科目を履修していきます。

「マイナー学修デザイン」に記載した授業科目の履修が全て終わった段階で、「学修創生型マイナー」必修科目の「分野横断リフレクション」を履修します。この授業では、「分野横断デザイン」で作成した「マイナー学修デザイン」をブラッシュアップし「確定版マイナー学修デザイン」を作成します。また「確定版マイナー学修デザイン」に記載した12単位以上分の授業科目間の関連性や、各科目の学修成果等を図示した「NICEカリキュラムマップ」も作成します。最後に「リフレクションレポート」で、自ら作ったマイナー・プログラムによる学修成果を示します。

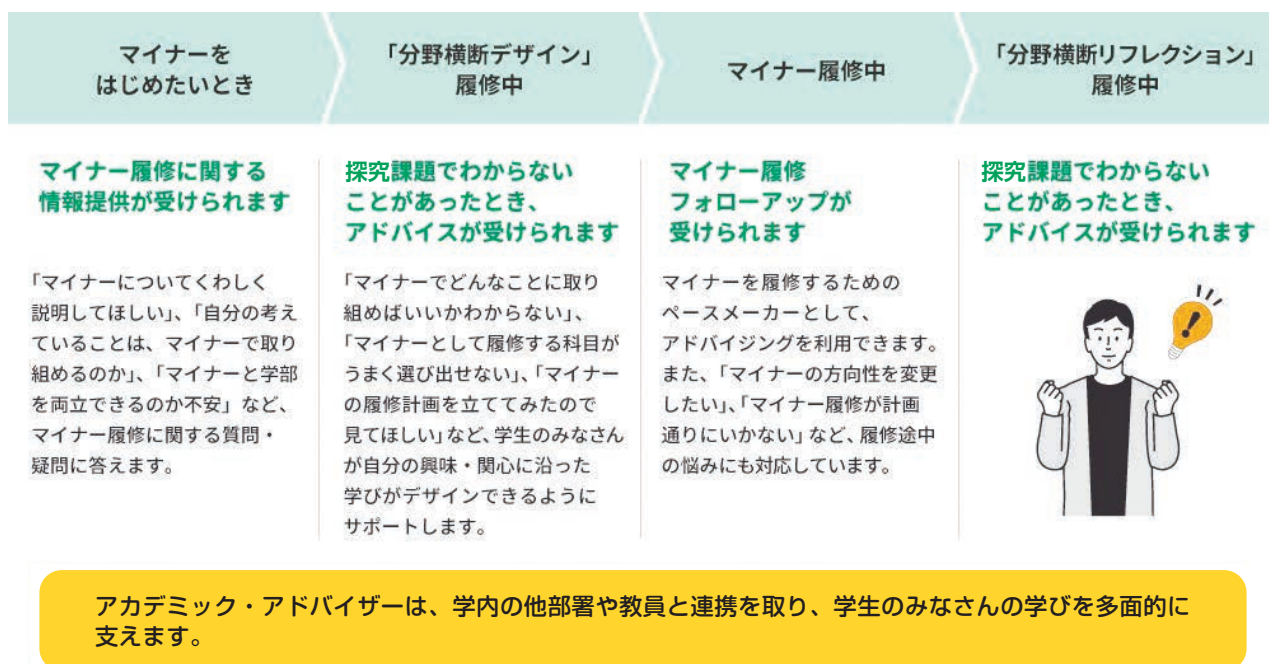
学修創生型マイナーでは、マイナー・プログラムを自ら作ることができるという皆さんの「自律と創生」を認めるとともに、「分野横断デザイン」と「分野横断リフレクション」という必修科目によって、独自のマイナー・プログラムが新潟大学において認証するに足る質であることを保証しています。

(4) メジャー・マイナー制を支えるアカデミック・アドバイザー

新潟大学のメジャー・マイナー制に興味を抱いた皆さんの中には、メジャーとマイナーの両立やマイナー・プログラム履修の継続など、不安に感じる人も多いと思います。このような不安を解消しながら、より効果的な学修を支援するスペシャリストであるアカデミック・アドバイザーがいます。

アカデミック・アドバイザーは、「分野横断デザイン」や「分野横断リフレクション」を担当するほか学修相談で、学生の皆さんがもっている興味・関心や問題意識をマイナーの学修につなげていくサポートをします。

マイナーの履修について迷ったとき、わからないことがあったときなど、アカデミック・アドバイザーに相談できます。詳しくは60ページを参照してください。



(5) マイナーを学ぶメリットは？

● 幅広い知識・スキルを得られる。

学生の皆さんは、自分の興味のある分野、将来なりたい職業を考えて所属している学部、学位プログラムを選んだことと思います。しかし、必ずしもその分野だけに興味があるわけではないのでしょうか。メジャー・マイナー制を活用することで、学位プログラムで専攻する分野以外に関心のある分野も体系的に学ぶことができます。また、自分とは異なるメジャーの学生と協働する機会も自ずと増えます。そのような学修によって、幅広い知識はもちろん、様々な場面で発揮する思考スキルや課題解決スキル、コミュニケーションスキルなどを得ることができます。

● 企業はメジャー・マイナー制で学んだ学生を期待している。

日本経済団体連合会による「採用と大学改革への期待に関するアンケート」（令和4年1月18日）において、大卒者に特に期待する知識として多くの企業が、専攻分野における基礎知識・専門知識と同等以上に「文系・理系の枠を超えた知識・教養」を求めていることが示されました。新潟大学のメジャー・マイナー制はこの期待に応える教育制度と言えるでしょう。就職活動ではエントリーシートや面接などで、大学で何を学んできたか、何に力を入れてきたのかを聞かれる場合があります。そのようなときに、メジャー・マイナー制で分野をこえた幅広い知識を学んだことをアピールすることができるでしょう。また、マイナー・プログラムの修了が認定されれば、マイナー・プログラム修了証が授与されます。それを就職活動等において自身の努力の成果を客観的に示すものとして活用することもできます。

2. マイナー・プログラム履修開始から修了証授与までの流れ

① ガイダンスへの参加・パンフレット（本冊子）を入手する

毎年、学期始め（4月、10月）にガイダンスが開催されます。ここでは、マイナー・プログラムの履修に関しての大事なお知らせがありますので、なるべく参加するようにしましょう。

また、マイナー・プログラムの科目リストに記載されている科目は、開講状況等により年度によって変更になることがありますので、注意しましょう。



② マイナー・プログラムの履修登録及び授業科目の履修

まず、各マイナー・プログラムの内容・修了認定要件などを確認してください。その後、履修を希望するマイナー・プログラムの履修登録を行ってください。そのうえで、各プログラムに登録されている科目リストから卒業時までには**12単位**又は**14単位**以上修得することを目指します。



③ マイナー・プログラム修了認定申請と審査（7月、12月）

マイナー・プログラムの修了認定を受けようとする学生は、第2年次第2学期以降、各学期の所定の期間に修了認定に係る申請（修了認定申請）を行わなければなりません。

修了認定申請に関するお知らせを学務情報システムにて通知します。



④ マイナー・プログラム修了証の授与（3月、9月）

修了認定を受けた学生に対して、「マイナー・プログラム修了証」を授与します。

3. マイナー・プログラムの履修方法

マイナー・プログラムの履修の全体的な流れは以下の通りです。

(1) 「NICEプログラム履修ガイダンス」

新学期の始まる時期（4月・10月）に、対面による「NICEプログラム履修ガイダンス」を開催します【令和7年度1学期は、4月7日（月）、8日（火）に開催予定、2学期の開催時期は未定。詳しくはNICEプログラムWEBサイト（P73 URL参照）でご確認ください】。

対面による「NICEプログラム履修ガイダンス」では、NICEプログラムの概要、履修の仕方について説明します。また、マイナー・プログラム履修中の学生に直接、履修上の注意点等を質問することができます。マイナーの学修について興味のある学生は、対面によるガイダンスに積極的に足を運んでください。

なお、「パッケージ型マイナー」の科目リストに記載されている科目は、年度によって変更となる場合があります。そのため、毎年4月に最新の情報を得よう心掛けてください。科目リストは、NICEプログラムWEBサイトで確認できます。また、過去の内容も、確認することができますので参考にしてください。

(2) マイナー・プログラムの履修登録

マイナーの学修を始めるにあたり、学務情報システムから①マイナー・プログラムの履修登録と、②科目の履修登録をする必要があります。

まず、学務情報システムから履修を希望するマイナー・プログラムの履修登録をしてください。具体的には、[マイナー学修（副専攻）関連] → [マイナー学修（副専攻）履修状況] から、履修したいマイナー・プログラムのボタンを押します。「学修創生型マイナー」と、他のマイナー・プログラムの間で迷っているという場合は、[未定（分野横断デザイン受講後に決定）] のボタンを押してください。

なお、ここで選択したマイナー・プログラムは、毎年、各タームのはじめ（4月・6月・10月・12月）に変更、あるいは履修取り消しをすることができますので、悩んでいる人も気軽に選んでかまいません。どのマイナー・プログラムを履修するか悩んでいる場合でも、必ず履修登録は行うようにしてください。

また、マイナー・プログラムの修了認定申請を行う際、履修登録していないプログラムを申請することはできませんので、修了を目指すプログラムは確実に履修登録してください。

※「未定(分野横断デザイン受講後に決定)」を選んだ人は、「分野横断デザイン」を履修後、次の学期の履修登録期間中に、自分が履修するマイナー・プログラムの履修登録を改めて行ってください。

学務情報システム「マイナー学修（副専攻）関連」履修ボタン操作手順

<<履修プログラムを選択する>>

【1】ホーム画面の「履修」アイコンから、

マイナー学修（副専攻）関連 → マイナー学修（副専攻）履修状況 をクリックします。



【2】履修したいプログラムの「履修」をクリックします。

履修中 が表示されれば、選択完了です。

No.	学修創生型・パッケージ型マイナー	No.	オナース型マイナー（副専攻プログラム）
1	「学修創生」（自己選択方式）	1	副専攻「環境学」
2	「アグロ・フードアソシエーツ」	2	副専攻「MOT基礎」
3	「ことづくり・マネジメント」	3	副専攻「芸術学」
4	「コミュニティ・マネジメント」	4	副専攻「外国語（ドイツ語）」
5	「データサイエンスリテラシー」	5	副専攻「外国語（英語）」
6	「ふるさと共創学」	6	副専攻「外国語（フランス語）」
7	「ジオパーク」	7	副専攻「外国語（ロシア語）」
8	「地域災害環境システム」	8	副専攻「外国語（中国語）」
9	「MOT基礎（特許・経営及び製品開発基礎コース）」	9	副専攻「外国語（韓国語）」
10	「外国語（ロシア語）」	10	副専攻「地域学」
11	「心理・人間学」	11	副専攻「GIS(地理情報システム)リテラシー」
12	「社会文化学」	12	副専攻「法学」
13	「言語文化学」	13	副専攻「政治学」
14	「法学」	14	副専攻「経済学」
15	「数学」	15	副専攻「電子・情報科学」
16	「物理学」	16	副専攻「統合化学」
17	「化学」	17	副専攻「医学物理学基礎」
18	「生物学」	18	副専攻「学校教育実践」
19	「自然環境科学」	19	副専攻「データサイエンス」
20	「機械システム工学」		
21	「社会基盤工学」		
22	「電子情報通信」		

*学務情報システムの画面は、前年度のものです。令和7年度開講のマイナー・プログラムとは一部異なります。

(3) 授業科目の履修登録

NICEプログラムWEBサイト（P73 URL参照）の「マイナー・プログラム一覧」で、各プログラムの修了認定要件や科目リストを確認し、通常の授業科目と同様に履修登録を行ってください。

「学修創生型マイナー」の履修を希望する人、あるいは「未定」の人は、1・2年次に「分野横断デザイン」、3・4年次に「分野横断リフレクション」を必ず履修登録してください。パッケージ型マイナーの中には、本科目の履修が必修となっているプログラムもありますので、該当者は同様に手続きを行ってください。

※科目の履修登録をしないと、その科目の開講情報（オンライン授業のミーティングIDなど）の連絡通知は届きません。必ず初回授業日までに科目の履修登録を済ませてください。

(4) マイナー・プログラムの修了認定と修了認定申請

マイナー・プログラムの修了認定を希望する学生は、**第2年次第2学期以降に、修了認定に係る申請（以降、修了認定申請と表記）を、特定の期間内に学務情報システムを通して行わなければなりません。**要件を満たせば自動的に認定されるというわけではありませんので注意してください。修了認定申請の期間や手続き等の連絡は、学務情報システムを通して行いますので、見逃さずに確認してください。修了が認定された学生には、**マイナー・プログラム修了証**が授与されます。

修了認定の要件

新潟大学のマイナー・プログラムには2つのタイプがあります。それぞれで修了認定の要件が異なります。

・学修創生型マイナーの修了認定の要件

次に掲げる要件をすべて満たす必要があります。

- (1) 分野横断デザイン（1単位）及び分野横断リフレクションの単位（1単位）を修得していること。
- (2) その他教育基盤機構が公示する科目を12単位以上修得していること。
- (3) (1)と(2)の修得単位の合計が14単位以上であること。

・パッケージ型マイナーの修了認定の要件

次に掲げる要件をすべて満たす必要があります。

- (1) 当該パッケージに示された科目を12単位以上修得していること。
- (2) その他当該パッケージが定める修了要件をすべて満たしていること。

	学修創生型	パッケージ型
プログラム開設数	1	48
科目の選び方	自分で選ぶ (自己選択方式)	科目リスト
修了認定単位数	14単位以上	12単位以上
備 考	マイナー支援科目「分野横断デザイン」を受講し、科目リストを含むマイナーの学修計画書を作成する	

修了認定申請の時期と方法

修了認定の要件を満たしたら、第2年次第2学期降に学務情報システムを通して、修了認定申請を行うことができます。

・修了認定申請の期間（予定）

各年度の第1学期6～7月と第2学期12月～1月の1ヶ月間程度を予定しています。時期が近づいたら、学務情報システムを通して連絡します。

・修了認定申請の方法

以下、学務情報システムを通して修了認定申請を行う方法を詳しく説明します。マイナー・プログラムのタイプごとに異なる点がありますので、自身が修了認定申請を行うプログラムについて、よく確認してください。

（5）学務情報システムから修了認定申請を行う方法

学務情報システムの【履修】アイコン→【マイナー学修（副専攻）認定申請登録】から、マイナー・プログラムの修了認定申請を行います。大まかな流れは、①修了認定申請を行うマイナー・プログラムを選ぶ、②当該プログラムについて必要事項を選択あるいは入力して申請する、という手続きになります。②はマイナー・プログラムのタイプによって異なる手続きになります。

①修了認定申請を行うマイナー・プログラムを選ぶ

留意事項を読み、[申請を開始する] ボタンを押すと、マイナー・プログラムの一覧が表示されます。自身が申請するプログラムを選んでください。

マイナー学修 (副専攻) 認定申請登録

マイナー学修の認定を申請するためのページです。その際、以下の点に十分留意して申請を行ってください。

- ・オナース型マイナー (旧副専攻) に関して、申請できるのは1つのみです。
- ・パッケージ型マイナーは複数申請できます。パッケージ内で履修した科目の単位は、1つのパッケージにつき4単位を上限として認められます。
- ・パッケージ型マイナーでは、当該パッケージが開設された年度以前に修得していた科目の単位も、それが当該パッケージの指定科目に合致するものであれば、8単位を上限として認められる場合があります。ただし、あるパッケージで選択した科目は、他のパッケージで重複させることはできません。
- ・学修創生型マイナーは、「分野横断リフレクション」科目において担当教員の認定を受けたうえで、自身の修得科目リストから該当する科目を選択します。担当教員の認定を受けていないものは申請できません。
- ・間違った、あるいは重複の申請を行うとマイナー認定ができません。各マイナー学修の修了要件と、自身が修得した科目をよく確認したうえで、申請を行ってください。

申請を開始する

認定を申請するマイナーを選択してください。パッケージ型マイナーにおいて、複数申請したいものがある場合には、一旦1つの申請を完了してから、同様の作業を繰り返してください。

全ての申請が終了したら、「申請を確定する」ボタンをクリックしてください。

申請を確定する 確定日 2023/07/31 11:56:30

No.	オナース型マイナー (旧副専攻プログラム)	申請状態	取得	No.	パッケージ型マイナー	申請状態	取得	No.	学修創生型	申請状態	取得
1	副専攻「環境学」	取得		1	「アグロ・フードデザイン」	取得		1	「学修創生」 (自己選択方式)	選択	取得
2	副専攻「MOF基礎」	取得		2	「ことづくり・マナジメント」	取得					
3	副専攻「環境学」	取得		3	「コミュニケーション・マネジメント」	取得					
4	副専攻「外国語 (ドイツ語)」	取得		4	「データサイエンス・デザイン」	取得					
5	副専攻「外国語 (英語)」	取得		5	「ふるさと研究」	取得					
6	副専攻「外国語 (フランス語)」	取得		6	「シボバーク」	取得					
7	副専攻「外国語 (ロシア語)」	取得		7	「地域災害環境システム」	取得					
8	副専攻「外国語 (ロシア語)」	取得		8	「MOF基礎 (検定・職業資格試験関係コース)」	取得					

なお、パッケージ型マイナーは、複数の修了認定申請を行うことが可能です。また、学修創生型マイナーは、必修科目「分野横断リフレクション」において作成する「マイナー学修デザイン」が修了認定申請の際に重要な役割を果たします。以下では、それぞれのタイプごとに手続きを説明します。

②-1. 当該プログラムについて必要事項を選択あるいは入力 【学修創生型マイナー】の場合

学修創生型マイナーは、学生自身がマイナーの学修をデザインするセルフメイド型のプログラムです。そのため、その名称、学修内容、学修成果、科目リストなど、そのマイナーがどのようなものの情報は自身で入力する必要があります。そのような情報をまとめたものを「**マイナー学修デザイン**」といいます。

マイナー学修デザインは、学修創生型マイナーの入門科目「分野横断デザイン」と集大成科目「分野横断リフレクション」で作成します。特に、「分野横断リフレクション」では担当教員の承認を受けた確定版マイナー学修デザインを作成し、それが修了認定申請で入力する内容になります。確実に担当教員の承認を受けたものを入力するために、手元に確定版マイナー学修デザインのWordファイルかPDFファイルを用意しておきましょう。

1. マイナー名の入力

確定版マイナー学修デザインの「名称」をコピー＆ペーストしてください。

学修創生型マイナーは自身でマイナー名をつけます。『分野横断リフレクション』科目において担当教員の承認を得たマイナー名を以下に入力してください。承認を得たマイナー名と異なるものを入力しないように十分確認してください。

マイナー名 : 自然災害に強い社会形成を目指して

次に進む
(学修内容入力画面へ)

2. 学修内容の入力

確定版マイナー学修デザインの「ねらいと概要」をコピー＆ペーストしてください。

学修創生型マイナー 自然災害に強い社会形成を目指して

学修創生型マイナーは自身でマイナーの学修成果を明らかにします。『分野横断リフレクション』科目において担当教員の承認を得たマイナー学修内容を以下に入力してください。承認を得た内容と異なるものを入力しないように十分確認してください。

学修成果

1. 自然災害・防災・社会の関係をハード・ソフト面から理解し、
現行の防災の課題を発見することができる。
2. 災害に関わる個人・集団の心理を把握し、これをもとに防災教

次に進む
(科目リスト選択画面へ)

3. 学修成果の入力

確定版マイナー学修デザインの「到達目標」をコピー＆ペーストしてください。

学修創生型マイナー 自然災害に強い社会形成を目指して

学修創生型マイナーは自身でマイナーの学修成果を明らかにします。『分野横断リフレクション』科目において担当教員の承認を得たマイナー学修内容を以下に入力してください。承認を得た内容と異なるものを入力しないように十分確認してください。

学修成果

1. 自然災害・防災・社会の関係をハード・ソフト面から理解し、
現行の防災の課題を発見することができる。
2. 災害に関わる個人・集団の心理を把握し、これをもとに防災教

次に進む
(科目リスト選択画面へ)

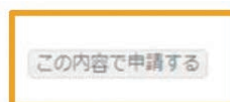
4. 科目リストの作成

自身が単位修得済み、あるいは修得予定の科目一覧が表示されます。その中から、確定版マイナー学修デザインの「学修計画」で挙げた科目を選択します。挙げていない科目を選ばないように注意してください。

学修創生型マイナー 自然災害に強い社会形成を目指して							
以下はあなたの全修得・履修科目の一覧です。その中から、『分野横断リフレクション』科目において担当教員の承認を得た科目リストから該当する科目を選択してください。担当教員の承認を得ていないものは申請出来ません。また、承認を得た科目と異なるものを選択しないように注意してください。							
選択	履修番号	科目名	単位	履点	評価	GP	履修年度・学期
☐	200G0576	アカデミック英語W	1				20-2
☐	200G0611	基礎英語	1				20-2
☐	200G2024	健康スポーツ科学実習 I	1				20-1
☒	200G7039	心と社会	2				20-1
☒	200T0008	創造プロジェクト基礎	2				20-2
☐	201G0021	アカデミック英語R1	0.5				20-1
☐	201G0063	アカデミック英語L1	0.5				20-1
☒	201G1013	外国語ベーシック1-7a (ドイツ語)	1				20-1
☐	201G4260	工学リテラシー入門 (力学分野)	2				20-1
☐	201G5018	物理学基礎B I	2				20-1
☐	201G5035	生物学基礎B	2				20-1
☐	201T0001	総合工学概論	2				20-1
☐	202G0022	アカデミック英語R2	0.5				20-1

5. 最終確認画面と申請

最終確認画面で申請内容が正しいかどうかを確認し、正しければ【この内容で申請する】ボタンを押してください。これにより、学修創生型マイナーの申請情報が記録されます。また、マイナー・プログラムの一覧画面の学修創生型の申請状況の列に、【済】が表示されます。



②-2. 当該プログラムについて必要事項を選択あるいは入力 【パッケージ型マイナー】の場合

パッケージ型マイナーは、パッケージごとにあらかじめ定められた科目リストが存在します。その科目リストと、申請者自身の単位修得済み、あるいは修得予定の科目をシステム側で自動的に照合します。照合された科目と修得単位数（あるいは修得見込単位数）が、申請パッケージで定められた修了要件を満たしているかどうかをよく確認してください。

特別な事情がない方は、申請するパッケージを選択して、最終確認画面へ進み、申請内容が正しいかどうかを確認し、正しければ【この内容で申請する】ボタンを押してください。これにより、当該パッケージの申請情報が記録されます。また、マイナー・プログラムの一覧画面の当該パッケージの申請状況の列に、【済】が表示されます。

認定を申請するマイナーを選択してください。パッケージ型マイナーにおいて、複数申請したいものがある場合には、一日1つの申請を完了してから、同様の作業を繰り返してください。

確定日 2024/11/23 18:29:18

申請確定時の日時になっていることを確認

No.	オナース型マイナー（副専攻プログラム）	申請状態	削除	No.	パッケージ型マイナー	申請状態	削除
1	副専攻「環境学」		削除	1	「アグロ・フードアソシエーツ」		削除
2	副専攻「MOT基礎」		削除	2	「ことづくり・マネジメント」		削除
3	副専攻「芸術学」		削除	3	「コミュニティ・マネジメント」		削除
4	副専攻「外国語（ドイツ語）」		削除	4	「データサイエンスリテラシー」		削除
5	副専攻「外国語（英語）」		削除	5	「ふるさと共創学」	済	削除
6	副専攻「外国語（フランス語）」		削除	6	「ジオパーク」		削除
7	副専攻「外国語（韓国語）」		削除	7	「地域災害環境システム」		削除
8	副専攻「外国語（ロシア語）」		削除	8	「MOT基礎」		削除
9	副専攻「外国語（中国語）」		削除	9	「ロシア語」		削除
10	副専攻「地域学」		削除	10	「ロシア語＜発展＞」		削除
11	副専攻「GIS(地理情報システム)リテラシー」		削除	11	「ドイツ語」		削除
12	副専攻「法学」		削除	12	「ドイツ語＜発展＞」		削除
13	副専攻「政治学」		削除	13	「英語」		削除
14	副専攻「経済学」		削除	14	「フランス語」		削除

「済」表示

なおパッケージ型マイナーでは、複数のパッケージの修了認定申請をする方のために用意されている仕組みがあります。複雑になるので割愛しますが、申請の際にこの仕組みを利用する場合、修了認定申請の説明会やその資料の指示にしたがってください。

パッケージ型マイナーにおける「重複」

パッケージ型マイナーは複数申請できます。パッケージ間で重複した科目の単位は、1つのパッケージにつき4単位を上限として認められます。

パッケージ型マイナーにおける「遡及」

当該パッケージが開設された年度以前に修得していた科目に関して、各パッケージが指定した該当科目である場合、修了要件に参入することができます。それが当該パッケージの指定科目に合致するものであれば、申請に含めることができます。この「遡及」の取り扱いについては、令和7年3月修了認定から変更されました。

4. 令和7年度 マイナー・プログラム一覧

No.	マイナー・プログラム名	分類
1	学修創生	学修創生型
2	心理・人間学	人文・社会科学分野
3	社会文化学	人文・社会科学分野
4	言語文化学	人文・社会科学分野
5	地域文化遺産継承学	人文・社会科学分野
6	法学	人文・社会科学分野
7	政治学	人文・社会科学分野
8	経済学	人文・社会科学分野
9	ビジネス・アントレプレナーシップ	人文・社会科学分野
10	ドイツ語	人文・社会科学分野
11	ドイツ語〈発展〉	人文・社会科学分野
12	英語	人文・社会科学分野
13	フランス語	人文・社会科学分野
14	フランス語〈発展〉	人文・社会科学分野
15	コリア	人文・社会科学分野
16	ロシア語	人文・社会科学分野
17	ロシア語〈発展〉	人文・社会科学分野
18	中国語	人文・社会科学分野
19	中国語〈発展〉	人文・社会科学分野
20	数学	自然科学分野
21	物理学	自然科学分野
22	化学	自然科学分野
23	生物学	自然科学分野
24	自然環境科学	自然科学分野
25	機械システム工学	自然科学分野
26	社会基盤工学	自然科学分野
27	電子情報通信	自然科学分野
28	知能情報システム	自然科学分野
29	化学システム工学	自然科学分野
30	材料科学	自然科学分野
31	建築学	自然科学分野
32	生物資源科学・流域環境学	自然科学分野
33	応用生命科学・食品科学	自然科学分野
34	ヘルス・マネジメント	保健学分野
35	アグロ・フードアソシエーツ	学際分野
36	ことづくり・マネジメント	学際分野
37	コミュニティ・マネジメント	学際分野
38	データサイエンスリテラシー	学際分野
39	実践データサイエンス	学際分野
40	ジオパーク	学際分野
41	地域災害環境システム	学際分野
42	ふるさと共創学	学際分野
43	MOT基礎	学際分野
44	農学から始めるDXとGX	学際分野
45	GIS (地理情報システム)	学際分野
46	医学物理学基礎	学際分野
47	医学物理学基礎〈発展〉	学際分野
48	核エネルギー・災害科学	学際分野
49	留学×グローバル人材育成	学際分野

■プログラムの名称「学修創生」

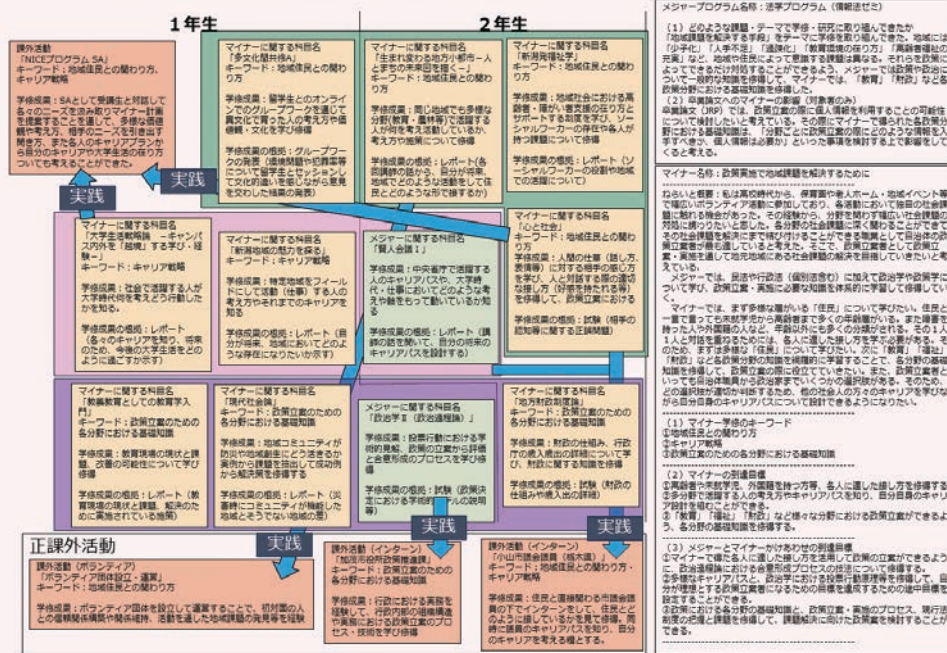
概要	今日の社会課題は複雑化・多様化しており、単一の専門分野の知見だけでは解決することが難しくなっている。そこで「学修創生」では、自己の興味関心と社会課題をベースとして、学生自らが既存の学問分野の枠組みにとらわれず、本学の多様な学問分野の科目から、一人一人の関心に適合する魅力的なオリジナル学修パッケージを創生する。また分野横断的な学修および履修計画を支援する授業科目群を通じて、メジャー・マイナーの掛け合わせが自分のキャリアにどのように役立つかを意識化・言語化できるようにする。以上を通じて、自己の目標をベースとしたオーダーメイド型の学修を進め、分野横断的な視点から社会課題にアプローチできる人材の育成を目指す。
----	---

学修創生型マイナーは、新潟大学独自の学びのスタイルであり、約4500科目の中から興味のある分野の科目を自由に組み合わせることができます。1・2年次には「分野横断デザイン」という授業で、自分の学びたいテーマや目標を設定し、3・4年次には「分野横断リフレクション」で学びの成果を振り返り、自分の成長を実感することができます。最大の魅力は、自分で学びをデザインできる点です。例えば、「地域格差と子どもへの影響」や「自然再生と地域振興」といったテーマを設定し、それに関連する授業を選んで履修していきます。こうした学びの中で得られる知識や視点は、座学を超えた実践的な力となります。

学修創生型マイナーは、大学生活を受動的に過ごすのではなく、能動的に、そして自律的に学びを追求する絶好の機会です。先輩学生であるSA（スチューデント・アシスタント）が、授業内外で相談に乗ってくれるので、初めての挑戦でも安心です。このプログラムを通じて、自分だけの学びを築き、将来への一歩を踏み出しましょう。新潟大学での学びが、あなたの夢の実現に向けた土台となることを願っています。学修創生型マイナーで、あなたも新しい学びの扉を開けてみませんか。

プログラム紹介

2023年度第1学期「分野横断リフレクション」NICEカリキュラムマップ



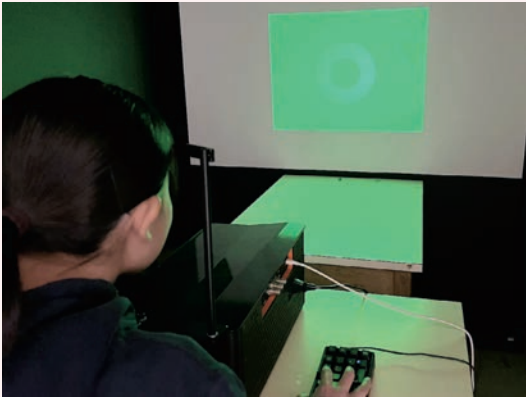
上図 学修創生型マイナーを修了した学生の学修成果物（NICEカリキュラムマップ）

パッケージ型マイナーの一覧については、全学分野横断創生プログラム（NICE プログラム）のウェブサイトを参照してください。

<https://www.iess.niigata-u.ac.jp/niceprogram/index.html>



■プログラムの名称「心理・人間学」

概要	心理学では、人間の行動やその心の働きの問題に、実験や調査などの実証的方法によってアプローチする。一連の講義においては、幅広い領域にわたる心理学の基礎知識を習得することを目指す。 人間学（哲学・西洋哲学史、倫理学、宗教思想史、芸術学）では、原典文献を読み解くことをつうじて、思想、哲学、倫理、宗教、芸術などに現れる人間性について理解を深める。
プログラム紹介	心理・人間学プログラムは、人間とその心の解明をめざして、心理学と人間学の分野を学ぶプログラムです。 人間の行動やその心の働きをあつかう心理学分野では、実験や調査などの実証的方法によってこれらの問題にアプローチします。心理学実験や調査に関わる基本的技能を身につけるとともに、知覚・認知、記憶・学習、感情・行動、性格、対人関係や集団の心理、心理学の応用など、幅広い領域にわたる心理学の知識の習得を目指します。 人間学分野には、哲学・西洋哲学史、倫理学、宗教思想史、芸術学の学問領域があります。人間の心（精神）は、日常的な言語活動から哲学的な思考、芸術の探究にいたるまで、そして道徳的な善悪の判断から宗教的な信仰にいたるまで、じつに多様な精神的所産を生み出してきました。人間学分野では、主として外国語や古典語で書かれた原典文献の読解を通して、これら哲学、宗教、科学、芸術などの人間の知的な営みの原理を解き明かし、人間性について理解を深めていきます。 このプログラムは、人間が直面する様々な課題に対して、人間についての深い理解に裏づけられた科学的分析と思考ができるような人材の育成をめざします。 



■プログラムの名称「社会文化学」

概要	本プログラムは、社会学、文化人類学、民俗学、考古学、人文地理学、芸能論、歴史学（日本史・アジア史・西洋史）、メディア論の領域の教育プログラムである。 いずれの領域も、文字資料のみならず、非文字資料から人々の営みを考え、様々な地域において形成された社会と文化の多様なあり方について多角的に学ぶ。また、それぞれの地域の文化的特性を歴史的に学ぶこともできる。さらに、今日のメディアの多様な面について理論と実践の両面から幅広く学ぶことができる。
プログラム紹介	人間はひとりで生きていくことはできず、必ず「社会」の中で生活しています。しかしその「社会」は、場所によって、また時代によって、様々な姿を見せます。「社会」とは、人と人が結びついてつくり上げるものですが、その結びつきのあり方は、地域や時代によって固有の特徴をもっています。そしてその上に固有の文化表現が、立ちあわれます。 社会文化学のパッケージに含まれる科目は、そうした社会の多様なあり方に、ある場合は遠い昔の遺跡を掘ることで、または地域に密着したアンケートをすることで、さらには最新の電子メディアを駆使して、実践的に迫っていく方法を知るヒントが、詰まっています。知のフィールドワークの現場に触れることで、自分のまわりの「社会」も、相対化して見るができるようになるでしょう。それはどのようなメジャーを学ぶ人にとっても、貴重な力になるはずです。



■プログラムの名称「言語文化学」

概要	アジアという地域のなかで相互に影響を与えながら、それぞれ独自の文化を形成した日本・中国・朝鮮の、特に言語文化を学ぶ。または、ヨーロッパおよびアメリカ共通の歴史的・文化的な核を視野に入れながら、同時にイギリス、アメリカ、ドイツ、フランス、ロシアそれぞれの言語文化の特徴を個別的に学ぶ。
プログラム紹介	日本、中国、朝鮮、イギリス、アメリカ、ドイツ、フランス、ロシアの言語・文学・文化を専門的に学び、高い言語運用能力を身につけるとともに、鋭い言語感覚と豊かな表現能力を養います。 言語分野では、言語表現の音声、形態、意味、構造、用法などの規則性・法則性の考察を進め、さらに、言語の歴史的変化や普遍性・個別性などの奥深さを理解します。そして文学分野では、古代から現代まで生み出されてきた詩歌や劇、物語、小説などの文学作品を研究し、人間の優れた叡智に触れ、普遍的諸問題についての考察を深めます。また、文化分野では、芸術、歴史、社会の変動など、幅広い文化的事象に関して知識を拡げ、多角的な視野と分析的思考の陶冶を図ります。 本プログラムでは、異なる言語・文学・文化を横断的に探究し、総合的に把握することによって、多様な価値観が存在する国際社会の中で生きていく柔軟な思考力を伸ばし、協働的な行動力を身につけることができます。そしてその専門性は、国語科および外国語科の学校教育の場はもとより、日本文化の世界への発信、外国の文化の翻訳や通訳といった技能がますます求められている官公庁や民間企業での活躍にも活かせるでしょう。  



■プログラムの名称「地域文化遺産継承学」

概要	過疎化や少子高齢化などに伴って、地域の中で長い歴史を経て伝えられてきた各種の文化財や芸能などの継承が、年々困難になっている。本プログラムはこうした危機的な現状認識に基づき、地域文化遺産とはどのようなものか、を中心に据えた必修科目を核として、そもそも地域とは何か、地域の現状はどのようなになっているか、を問う文理にまたがる多彩な科目の受講履修によって、地域文化遺産の継承に資する独自の処方箋を示しうる人材の育成を目指す。
プログラム紹介	同じ民具がたくさんありすぎてもう受け入れられない、という博物館がありました。交通の近代化を雄弁に語る遺跡が、町の再開発を優先して調査途中で壊されてしまいました。担い手がいなくて中止になるお祭りも、年々増えています。 私たちが祖先から受け継いできた、地域の文化遺産は、かけがえのないものです。地域文化遺産が失われるということは、私たちと祖先とをつなぐ綱が切れてしまうことを意味します。そのことが地域に暮らす人々の心にもたらす影響は、大きいものがあるでしょう。 地域の文化遺産は土地の記憶です。記憶を失った土地は、大切にしたいけれども、価値を感じることができません。そういうひとが、ますます増えていくのではないのでしょうか。 そもそも地域で生きる、とはどのようなことなのでしょう。地域の価値とは、どこに見いだせて、どうすれば引き継げるのでしょうか。このマイナー・プログラムは、そうした問いへのひとつの処方箋をともに見出す試みです。  



■プログラムの名称 「法 学」

概 要	変革が進む日本の社会にあって、これからは公正・公平で透明なルールによって規律される自由競争・自己責任の時代となるといわれている。それはまさに法的な見方・考え方がより重要となる時代の到来を意味するものである。また、いたるところで多様な紛争、社会問題が絶えず発生している。本プログラムは、時代の変化に備え、紛争・社会問題の処理、解決、予防を任務とする法律、法学の機能と課題を、公法、民事法、刑事法及びその他の法律学分野の全般にわたる授業の履修を通じて理解しようとするものである。
-----	--

プログラム紹介	本プログラムは、公務員試験や資格試験等で目にするもののある法学系の科目群（憲法Ⅰ～Ⅲ、民法Ⅰ～Ⅲなど）と、それらを理解するうえで役に立つ入門的な科目群（人文社会科学入門（法学）、政治学Ⅰ（政治学入門）、行政学Ⅰ（総論）など）から成ります。本プログラムによりまとまった科目群を履修することで、公務員試験等の対策で役に立つかどうかというよりもむしろ、そうした試験対策で求められている知識が首尾よく公務員等となったあとでどのように実務に活きるかや、あるいは活かすためにはどういった思考が必要か（そしてもちろん、よりよい執務のためには既存の知識・理解をどう改善していくべきか考えることも含みます）といった観点から、重要な学びを得ることができるでしょう。法学の単なる基礎的な知識・理解の習得にとどまらず、それらを応用し、かつ発展させるためには、法学とは一見無関係に見える政治学の入門的な科目の履修や、公務員試験等の科目としてはあまり目にしないような科目を履修することで、より幅広い視野を獲得することがとても大切です。一見無関係に見えても、実は相互に関連しているということが世の中にはあります。一つの見方では答えのなかなか出ない課題も、複数の見方を駆使すれば答えが見えてくることもあるでしょう。本プログラムは、法学として求められる基礎的な知識・理解の体系だった習得と、その背景となる政治系科目を併せてパッケージとすることで、そのような学びを可能にしています。
---------	--



■プログラムの名称「政治学」

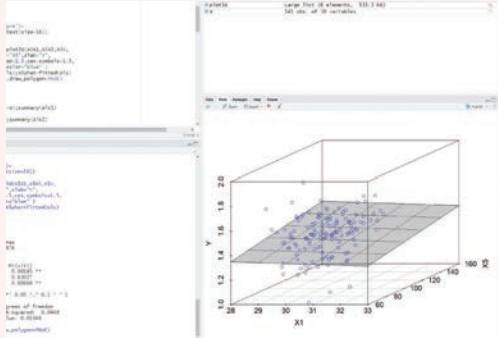
概要	本プログラムは、わたしたちの日々の暮らしに密接にかかわる「政治」について、政治の現象に関する基本的な仕組みや知識・理論、政治・外交の歴史、国際関係などについて学び、政治・行政・国際関係について専門的な観点から理解することができるようになることを目指す。将来的に公務員として行政に携わろうとする者にはもちろん、広く一般企業で活躍しようとする者にとっても、およそ世界・日本社会に積極的に関わろうとする際に役に立つ内容を含むプログラムである。
----	--

プログラム紹介	本プログラムは、政治学（政治学Ⅰ・Ⅱなど）や国際関係（国際関係論など）、外交（日本政治外交史Ⅰ・Ⅱなど）について、その背景を成す社会の理解（ジェンダー論）も交えながら、体系的に学ぶことを可能にするものです。公務員試験や資格試験等ではなかなか目にするものがない科目群ですが、世界や日本社会を理解するうえでは重要な科目群です。将来、公務員となろうとしている者には、首尾よく公務員となったあとで、日々、接することになる様々な課題解決のカギとして役に立つことでしょう。将来的に一般の民間企業で活躍しようとしている者にとっても、日々の業務に社会情勢が一切関わらないということはない以上、やはり役に立つはずで、これらの知識は、いわばみなさんが世界や日本社会で活躍しようとするときに役に立つ一そろいの道具であって、もちろんその活用はみなさんに委ねられていますが、いったん大学から離れてしまうと、獲得するのに大変な労力と時間を要するものです。あとで必要だと分かったからといって、取りに戻ってくるのは至難の技でしょう。そして付け加えれば、これらの知識を得ることで、世界や日本社会の情勢に、もしこれまであまり興味がもてなかったとしても、興味がもてるようになることが期待されます。就職活動を前にして「新聞を読め」とアドバイスされることがありますが、読む気がしないと読みはしないわけで、ここで、「読む気」を身に付けておくことをおすすめします。本プログラムは、そうした観点から、政治学・国際関係・外交をメインとしてそれらの総合的な知識・理解の獲得を可能にするパッケージです。 
---------	--

パッケージ型マイナーの一覧については、全学分野横断創生プログラム（NICE プログラム）のウェブサイト参照してください。
<https://www.iess.niigata-u.ac.jp/niceprogram/index.html>



■プログラムの名称「経済学」

概要	人類は、生誕と共に、生産と消費を中心とする経済活動をつづけてきた。人間生活の物的基礎をなすこの経済活動は、この間たんに高度化してきただけではない。その社会的あり方は、量的な変化を伴いながら構造的に、また国や地域ごとに個性を持って段階的に発展してきた。マイナー「経済学」では、このような経済について、その理論・歴史・政策・現状を体系的に学ぶことができる。
プログラム紹介	経済学はお金儲けについての学問ではなく、人間を理解するための学問です。人間を理解するといってもいろいろな切り口があり、そのためさまざまな学問分野がありますが、経済学は「人間は役割を分担し、互いに助け合う仕組みを持っている」という面から人間を理解しようとしています。いわば経済学とは人間の「分業と協力」の科学です。人間が文明を発達させ現在のよう文化的な生活ができているのはこの「分業と協力」の賜物です。たとえばあなたの手の中のスマートフォン一つとっても、ゼロから一人でそれを作る人はいません。多数の部品、またOSやアプリからなっており、膨大な数の人たちの手がかかっています。部品には材料がありそれは自然資源の採掘まで遡る。また物理的な面だけでなく、高度なものの作りのための知識・技術の伝達、さらにその後ろには教育を運営する社会的組織・制度の存在も本質的です。こうして空間的にも時間的にも地球上の多くの人間が関わっていることがわかります。これは身の回りのもの全てがそうで、私たちは地球規模の「分業と協力」のネットワークの上に生きているのです。 経済学はこうした人間のネットワークの仕組みを解明し、人類の生活をより良くしようとするものです。それだけに経済学はあらゆる人間活動に関係し、それゆえにいろいろな「入口」を持つ学問です。経済学には、抽象的な理論から入れることもできれば、具体的な事例から入ることもできます。ある国全体の政治経済の発展の歴史から学ぶこともできれば、単純な交換を分析することで経済活動の裏にある普遍的な法則に肉薄することもできます。 マイナープログラム「経済学」ではこのように多様な面を持つ経済学への多様な「入口」を提供します。みなさん一人一人の興味や適性に合った科目を選んで、ぜひ経済学の世界に足を踏み入れてみてください。  



■プログラムの名称 「ビジネス・アントレプレナーシップ」

概 要	現在、アントレプレナーシップという言葉には様々な定義がある。本プログラムでは、ビジネスアイデアをもつ学生がいかにビジネスの形へ具体化させるのかという点に焦点を当てる。学生がもつアイデアは、社会を大きく変える可能性がある。しかし、アイデアだけでうまくいくわけではない。ビジネスへと展開する知識やノウハウを持ち合わせて、はじめてアイデアがビジネスの形へと具体化されていく。また、ビジネスの形は、新しく会社を起こすことに限られるものではなく、企業に就職して組織内で実現する方法も考えられる。本プログラムはアイデアを持っている学生が、それをビジネスの形に変えるために必要な知識とノウハウの習得を目指す。
プログラム紹介	『自身のアイデアや熱意をビジネスの形で活かす！』 「アントレプレナーシップ」という言葉は、今では高校教育などでも用いられる一般的な言葉として使われています。新潟大学でも各学部で様々な取り組みが行われています。「アントレプレナーシップ」は、新事業や新商品を積極的に創造する意欲であり、リスクに対して挑戦する起業家の精神と定義されることがあります。一方、「アントレプレナーシップ」には、社会的課題など世の中の課題を解決する姿勢が含まれると解されることもあります。 総合大学である新潟大学には、アイデアをもつ学生が全学部におり、きっと様々なアイデアの種（Seed）が存在しているでしょう。例えば、工学部などで技術を研究する学生が、ビジネスを興したいと考えているかもしれません。農学部の学生が農業の苦境を解決しながらビジネスの道を模索しているかもしれません。経済を学ぶ学生が、他学部の学生と何かアクションを起こしたいと考えているかもしれません。さらに、自分で会社を興すという目標に限らず、そういう若者をサポートする仕事に就きたいと考える学生もいるかもしれません。 本プログラムでは、全学部が存在するアントレプレナーシップの機運やビジネスの種を、ビジネスの形に変えたいと考えている学生が学ぶべき知識を体系的に学びます。 経済科学部・経営学プログラムでは、企業などの組織について学ぶことができます。これらの既存の科目に加えて、ビジネス・アントレプレナーシップの科目を準備しました。ビジネス・アントレプレナーシップ入門、起業・創業のための会計入門、ビジネス・アントレプレナーシップ演習（本科目の履修者数は少数になります）。アイデアの醸成、お金や会計の知識、実際に起業された方々からアドバイスなどを学ぶことができます。これらの科目と経営学プログラムの専門科目を通じて、アントレプレナーシップのマインドを持つ学生がアイデアをビジネスの形に変えるための考え方を学ぶことができます。 本プログラムでは、自身の主専攻で学ぶ専門知識を活かす方法としてのビジネス・アントレプレナーシップを学ぶものであり、自身の知識やアイデアを社会で活かす方法を考えている学生が積極的に学ぶべき知識を身に着けることができます。



■プログラムの名称 「ドイツ語、およびドイツ語＜発展＞」

概 要	【ドイツ語】ドイツ語運用能力の基礎および、ドイツ語文化圏についての入門的知識を習得するためのプログラムである。ヨーロッパ言語共通参照枠（CEFR）に準拠すると、A1.1からA2.1のレベルに到達することを目指す。読む・書く・聞く・話す能力の基礎を徹底して習得する。 【ドイツ語＜発展＞】「ドイツ語」を修了もしくは修了見込みの学生を対象とする。ヨーロッパ言語共通参照枠（CEFR）に準拠するレベルで、A2.2からB2のドイツ語運用能力に到達することを目指す。ドイツ語の応用力の養成を目指す。
------------	--

プログラム紹介	【ドイツ語】ドイツ語・ドイツ文化を魅力的かつ深い「森」にたとえるならば、本プログラムは森を歩くための道具を整え、森の入り口に到達するまでの道のりです。具体的な目標として、語学の面では「ひとりでドイツ語圏の旅行ができる」「簡単な文章を読む」、文化・知識の面では「ドイツ語圏文化を知るうえでのキーワードを学ぶ」ことが挙げられます。語学力と文化への知見、その両方を、時に頭に汗をかきながら楽しく学びましょう！ 【ドイツ語＜発展＞】ドイツ語圏文化という魅力的な森のもっと奥深くへと足を踏み入れたいという学生向けのプログラムです。より実践的な、読む・書く・聞く・話す能力を訓練します。また、文学や思想の作品をドイツ語原文で講読することで、自律的かつ自由自在にドイツ語圏文化を歩くための授業を提供します。コミュニケーションに代表される語学力と、アートや音楽といった文化、文学や思想の専門知識の習得の両立を目指しましょう！！  
----------------	---

パッケージ型マイナーの一覧については、全学分野横断創生プログラム（NICE プログラム）のウェブサイトを参照してください。
<https://www.iess.niigata-u.ac.jp/niceprogram/index.html>



■プログラムの名称「英 語」

概 要	卒業時まで、準上級以上（英検準1級またはCEFRにおけるB2以上）の英語運用能力を身につけることが本プログラムの主目的である。しかしながら、こうした英語による実用的なコミュニケーションスキルの向上だけでなく、英語という言葉の仕組みや英語圏の文化、社会、経済などに関する理解を深めることにも重点が置かれている。本プログラムを通して、実践的な英語運用能力および多様な文化に対する理解を身につけ、様々な分野で国際社会に貢献できる人材を育成する。
-----	---

英語をある程度自由に駆使できるということは、グローバル化された世界で大変有利な武器となります。英語で外国の人々と直接コミュニケーションを取ることに加えて、インターネットを利用する際に英語を使えば、アクセスできる情報の世界は飛躍的に広がります。英語が使えると、単に視野が広がるだけでなく、キャリアアップのチャンスをつかむことも可能になります。しかし、このようなことを可能にするためには、最低でも準上級以上（英検準1級またはCEFRにおけるB2以上）の英語力が必要となります。

皆さんの多くの英語力は、中級の下から中級の中といったレベルにあると思います。このレベルを準上級以上に上げるためには、英語学習を継続して行うことが肝要です。それにもかかわらず、1年次に必修の英語科目を受けただけで英語の勉強を止めてしまう学生が多くいます。英語に興味があったり、さらに英語力を伸ばしたいという目標を持っていたりする学生にとっては、英語学習を1年次で止めてしまうのはもったいないことです。本プログラムを活用しながら、英語力を総合的に高めていきましょう。

実際に科目を履修する際には、ある程度自分の興味やニーズに合わせて授業を選ぶことができます。英語による実践的なコミュニケーション能力を伸長する授業に加えて、言語、文化に関する幅広い知識を習得してもらうために、英米文学、英語学、経済、ビジネスなど、多様なジャンルの英語に触れるための授業を用意しています。

英語学習を一人で継続することはなかなか困難です。皆さんが英語学習を継続して、準上級以上のレベルに到達するのを手助けすることが本プログラムの大きな目的です。一人でも多くの方がこのプログラムにチャレンジして、国際社会で活躍できる英語運用能力を身につけてくれることを期待しています。





■プログラムの名称 「フランス語、およびフランス語＜発展＞」

概 要	【フランス語】マイナー・プログラム「フランス語」は、基礎的なフランス語能力を持つ学生を対象に、高度なコミュニケーション力と文化理解を深めることを目的とするものである。授業では、文法、語彙、発音の習熟を目指すとともに、フランスの社会、文化、歴史に焦点を当てた資料を使って研究を行う。フランス語での対話、プレゼンテーション、小文作成を通じて表現力を高め、日常的な状況での効果的なコミュニケーションができる基礎的な会話力も養成する。読解力、リスニング力、ライティング力を身につけ、国際的な研究、ビジネス、外交などで活躍できる人材を育成することを目指すものである。 【フランス語＜発展＞】マイナー・プログラム「フランス語＜発展＞」は、中級レベルのフランス語能力を持つ大学生を対象に、より高度な言語運用力と文化理解を深めることを目的とするものである。授業では、高度な文法、専門語彙、文学テキストの解釈に重点を置き、日本語とフランス語で進められるものである。論文作成を通じて批判的思考力と分析力を養成し、フランス語圏の社会・文化・歴史に触れることで、文化に対する洞察力を深める。また、ビジネスフランス語、プレゼンテーション、交渉術など、プロフェッショナルなコミュニケーション能力の育成も目指すものである。グローバルな視野を涵養し、国際舞台で活躍できる人材の育成がこのプログラムの目標である。
プログラム紹介	【フランス語】 はじめてフランス語を学ぶ方が対象です。このプログラムでは、フランス語の基礎から丁寧に学んでいきます。 フランス語は世界で約1億7千万人が使用し、29カ国で母国語や公用語として採用されている、とても魅力的な言語です。「フランス語は難しそう」という印象をお持ちかもしれませんが、実はとても規則的な言語なのです。 基礎プログラムでは、アルファベットの読み方から始めて、簡単な日常会話ができるところまで、着実にステップアップしていきます。「読む・書く・聞く・話す」という4技能をバランスよく身につけられるカリキュラムで、ネイティブ教員による授業も交えながら、実践的なフランス語力を育てていきます。 目標レベルは、フランス語検定試験4級程度（ヨーロッパ共通参照枠CEFRのA2レベル）です。授業では、視聴覚教材やオンライン学習ツールも活用し、楽しみながら効果的に学習を進めていきます。また、フランス語圏からの留学生との交流会や、フランス映画鑑賞会なども定期的に開催しています。 『フランス語＜発展＞』 このプログラムでは、基礎的なフランス語力をお持ちの方を対象に、さらに実践的なコミュニケーション能力の習得を目指します。 発展プログラムでは、新聞記事の読解や報告書の作成、日常的なビジネスシーンでの会話など、実践的なフランス語運用能力の育成に重点を置いています。授業の多くはフランス語で行われ、文化的・社会的なテーマについてのディスカッションや、基礎的な文献講読なども取り入れています。 特徴的なのは、フランス語圏の大学との交流プログラムです。オンラインでの意見交換や短期留学プログラムを通じて、生きたフランス語を学ぶ機会を提供しています。目標レベルは、フランス語検定試験3級から2級レベル（ヨーロッパ共通参照枠CEFRのB1～B2レベル）です。 さらに、基礎的な通訳・翻訳の演習や、プレゼンテーション演習など、実践的な科目も用意しています。確かなフランス語力は、国際交流員、翻訳者、商社やホテル、観光産業など、様々な分野で活躍するための有効なツールとなります。



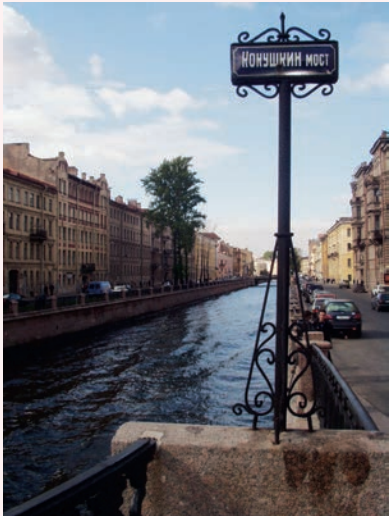
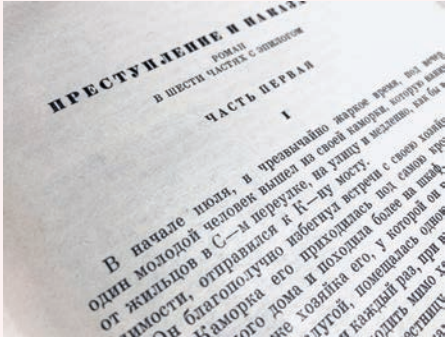
■プログラムの名称「コリア」

概要	日本という国土に住む私たちは、いやおうなく東アジア諸国およびそれを取り巻く世界との関係の中で生きています。東アジア、特に南北코리아と日本が対話（外交）によって良好な関係を築くことは、武力（戦争という暴力）によって他国・他地域の領土や住民の生命・生活を脅かす「世界史」の流れに抗するだけの価値があります。新潟大学での朝鮮語（韓国語）学習および、留学生との交流、さらには世界的な規模で展開する「韓流」文化コンテンツを媒介とする人的交流を通じて、異なる国籍・言語・歴史・文化を持つ者どうしが、偏狭で排他的な自国・自民族中心主義に陥ることなく、相互理解に至ることを目指します。
プログラム紹介	2002年の日韓サッカーワールドカップ共同開催、2003年のNHK「冬のソナタ」放映、2005年の「東方神起」日本デビューから20年を経て、もはや日常生活で食品から娯楽まで、韓国文化に接しない日はありません。2025年は日韓国交正常化から60年、朝鮮民主主義人民共和国とも20年後には、相互交流が生まれているかも知れません。 1894年の甲午農民戦争から日清・日露戦争を経て、1910年8月29日の大韓帝国併合まで、現代のウクライナやパレスチナでの抵抗運動のような「民衆蜂起」「義兵闘争」を徹底的に弾圧して、日本は朝鮮半島を植民地にします。他国・他民族の領土・生命を蹂躪し、破壊し続けるロシアやイスラエルの姿は、かつての大日本帝国と同じであることを、私たちは自省とともに学ばなければなりません。2015年の端島（軍艦島）など「明治日本の産業革命遺産」や、2024年の「佐渡島（さど）の金山」ユネスコ世界遺産登録の過程でも懸案となった「歴史認識」の問題は、韓国政府との外交問題ではなく、日本人自身の歴史観・人権感覚が問われているのです。明治政府の「富国強兵」政策は「公害戦争」と表裏一体であり、その被害は日本国内外に、令和の現在にまで及んでいます。 1931年9月18日の柳条湖事件を契機とする「満州」事変から、1937年7月7日の盧溝橋事件による日中全面戦争、1941年12月8日の真珠湾攻撃、1945年8月15日の敗戦まで「太平洋戦争」「第二次世界大戦」ではなく、「十五年戦争」「アジア・太平洋戦争」と呼ぶべきでしょう。北海道（アイヌ）、沖縄、台湾、朝鮮、中国大陆、東南アジアへと侵略を拡大する過程で、私たちの祖先が現地で何をしたのか、そのことをきちんと学び、二度と同じことを権力者に許さないと誓ってこそ、アジアの人びと、世界中の人たちと友人になる資格が得られるでしょう。 「戦争は人の心の中で生まれるものであるから、人の心の中に平和のとりでを築かなければならない。／相互の風習と生活を知らないことは、人類の歴史を通じて世界の諸人民の間に疑惑と不信を起こした共通の原因であり、この疑惑と不信の為に、諸人民の不一致があまりにもしばしば戦争となった。」（ユネスコ憲章前文より） 「코리아」について学ぶことは、ふだん自明のものとして疑うことがない自国の歴史や文化を客観視して、抑圧された事実や記憶を見つめ直すことで、いま日本社会を覆っている閉塞感（生きづらさ）の根本原因を知ることにもつながるでしょう。  仁川空港上空



■プログラムの名称 「ロシア語、およびロシア語＜発展＞」

概 要	ロシア語とロシア語圏の文化・社会に関するプログラムです。 【ロシア語】 初級～中級のロシア語運用能力（ロシア語検定では3級、ヨーロッパ言語共通参照枠CEFRではA2程度）を目指します。1年次にロシア語を履修していれば2年次以降に科目をいくつか追加するだけで修了できますし、2年次以降にゼロから始めることも可能です。 【ロシア語＜発展＞】 中級～上級のロシア語運用能力（ロシア語検定では2級受験程度、ヨーロッパ言語共通参照枠CEFRではB1程度）を目指します。
-----	--

プログラム紹介	「おそロシア」という言葉があります。とりわけ2022年2月24日のウクライナ侵攻以降、ロシアはもはや私たちには理解することができない国になってしまったかのようです。ロシア人たちもまた、「ロシアはアタマじゃわからない」という19世紀の詩人チュッチェフの有名な言葉を繰り返すことで、世界中の人々から理解されることを断念しているかのようによにみえます。だがほんとうにそうでしょうか。 ことはそう単純ではありません。「ロシア」とか「ロシア人」と一括して呼ぶことができるような実体はどこにも存在せず、実際にそこにあるのは長い歴史のなかでおりなされてきた多様な人々の複雑な営みであって、それは「日本」や「日本人」の場合と同じだからです。ロシア語を学ぶことは、「ロシア」なるものを勝手に想像して、一方的に惚れ込んだり、一方的に憎しんだりすることではありません。それは、「ロシア」の複雑さを理解し、「ロシア」に対する思い込みを少しずつほぐしていくことで、私たち一人ひとりが、自分なりの「ロシア」理解を作り上げていくための第一歩でなければなりません。 すでにはじめている人も、はじめようかどうか迷っている人も、少しロシア語を勉強してみませんか。実は新潟大学は、初級から上級まで、ロシア語を4年間学びつづけることのできる、全国的にも数少ない大学の一つなのですから。  
---------	---



■プログラムの名称 「中国語、および中国語＜発展＞」

概要	【中国語】 初修外国語としての中国語に対する中級程度の学習習熟度を認定する。 【中国語＜発展＞】 初修外国語としての中国語に対する上級程度の学習習熟度を認定する。
プログラム紹介	冷戦終了後、中国は急速な経済発展を果たし、国際社会の重要なプレーヤーの一つとなりました。現在、国際社会の情勢は予断を許さない状況が続いていますが、そのような中にあっても、日本にとって中国は、経済上の結びつきの強さからも、あるいは地理や文化の近さからも、けっして無視することができない国です。 外国語の学習は、異文化に触れることでもあります。もちろん、言葉の学習はそれ自体がとても楽しいものですが、それは単なる技術の習得にとどまらない知的な刺激を与えてくれます。ましてや中国は、日本と共通の文化的なルーツを持っています。日本にとってはある意味で特殊な意味を持つ国だと言っていいでしょう。 これまで日本人が日本を理解しようとする時には、欧米先進諸国と比較して自国の状況を知らうとすることが多かったように思います。それは、先進国になるという目的地から振り返って見る視点と言っていいでしょう。一方で我々は、我々の文化的なルーツから、現在の日本がどのように発展してきたのかという、出発点から眺める視点を持つてもいいはずです。そのような時には、中国やその他の東アジア諸国との比較は大きな啓発を与えてくれるでしょう。 まずは気軽に中国の言葉と文化に触れてみてください。英語とは異なる文法が肌に合うという人もいるかもしれません。さらに我々のありかたを振り返るきっかけを得ることもできるかもしれません。多くの実りがあることを願っています。



■プログラムの名称 「数 学」

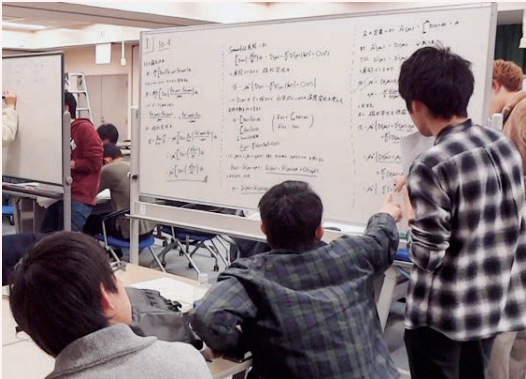
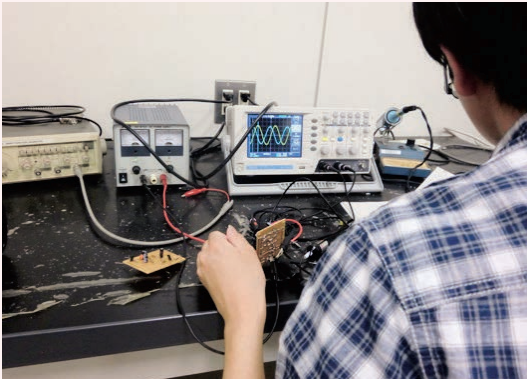
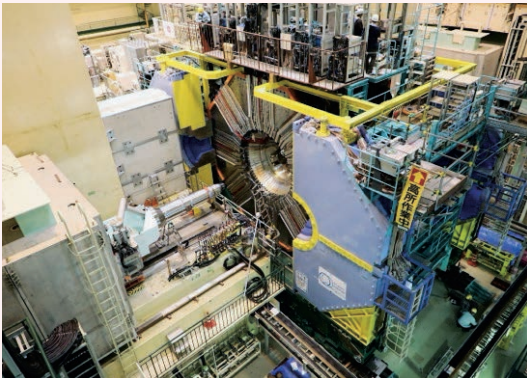
概 要	数学は古代に人類社会の発展のなかで生まれ、数千年の歴史の中で進化し深められ、精緻で壮大な知的体系を作り上げてきた。そしてその成果は多くの科学分野に応用されている。また近年のコンピュータの発展は、科学における数学・応用数学の位置を益々重要なものとしている。 現在では数学的手法は理工系の学問だけでなく人文科学、社会科学でも必須のものである。数学を学ぶことによって身につけることのできる「秩序立てた論理的思考力と問題解決能力」は、社会から非常に高く評価されているだけでなく、最も求められている能力といえる。 本プログラムで学ぶことにより数学の基礎的素養と、数学を実際に活用する態度を身につけることができる。
-----	--

プログラム紹介	数学はあらゆる科学の基礎を支える最も重要な基幹学問の1つです。そして数学的なものの考え方は様々な場面において大変有用であることも分かっています。現代のように種々の問題が絡み合い複雑化した社会では、それを解決するための基礎として数学・応用数学の重要性が高まる一方です。21世紀においても数学・応用数学は重要な学問として益々発展していくでしょう。 数学プログラムでは、産業構造の変化を伴う現代の科学技術基盤社会に対応した、数学の基礎から応用までをしっかりと学ぶことのできる授業を開設しています。数学プログラムでマイナーを学ぶことにより、数学の基礎的素養と、数学を実際に活用する態度を身につけることができます。
---------	---



■プログラムの名称「物理学」

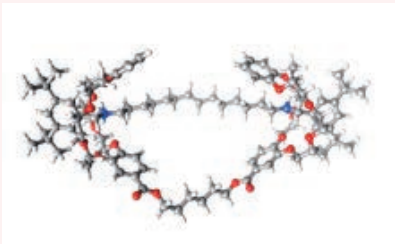
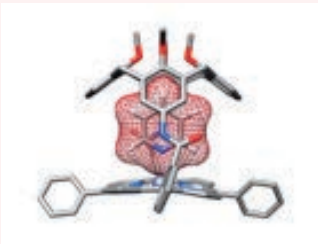
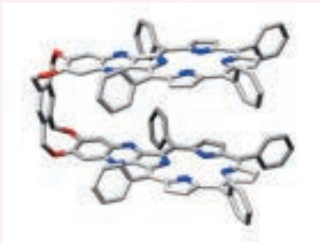
概要	1965年にノーベル物理学賞を受賞した朝永振一郎博士は、物理学について「自然界に起こる現象の奥に潜む法則を観察事実には照らして探求するもの」と述べている。朝永博士の受賞から50年以上が経ち、自然界には存在しなかった新元素や新素材をも含む文字通り「すべてのもの」が、いまでは物理学の探求対象となっている。 様々な分野の基礎となる物理学を学ぶことで、自然現象から社会現象まで深く緻密に観察し、理解する能力を身に付けることができる。そして、数学を用いて精密に体系化された物理学を系統的に学ぶことで、論理的な思考能力と能動的な問題解決能力の修得に繋がる。
-----------	---

プログラム紹介	物理学は、素粒子・原子核・物質の極微の世界から壮大な宇宙までを研究対象として、宇宙の始まり、物質の根源、超伝導現象などを探究したり、新物質を探索・開発したりして、自然界の基礎法則を解明し、広範な科学技術を下支えしています。マイナー・プログラム「物理学」では、物理学の基盤となる古典力学、電磁気学、熱力学を講義や演習により学ぶと共に、現代物理学の結晶である量子力学と特殊相対性理論の基礎を学ぶことができます。   （左：反転授業による討論形式の授業、右：物理学の実験の一コマ）   （左：国立天文台（野辺山）の45m電波望遠鏡、右：電子・陽電子衝突BelleII実験の装置）
----------------	---

パッケージ型マイナーの一覧については、全学分野横断創生プログラム（NICE プログラム）のウェブサイトを参照してください。
<https://www.iess.niigata-u.ac.jp/niceprogram/index.html>



■プログラムの名称 「化 学」

概 要	近年の科学技術の急速な発展に伴う社会の要請に応えるため、化学とそれに関連した自然科学の諸分野に強い興味を持ち、化学の基本的な知識を根底にした幅広い理解力と応用力を身に付けた柔軟かつ独創性のある人材を育成する。 専門科目は化学の基幹分野である分析化学、無機化学、有機化学、物理化学に加えて、境界領域である生物科学分野の内容もカバーしている。また、持続可能な社会の実現を目指したSDG'sの教育・研究にも力を入れている。
プログラム紹介	化学は、身の回りから宇宙に至るまでの広い空間に存在する物質、光が原子1個分しか進むことのできないほどの極めて短時間だけ存在する物質、宇宙誕生以来現在に至るまでの長い年月ずっと存在し続ける物質など、あらゆる時空間に存在する物質の性質や反応性を探究して、物質世界の仕組みを原子・分子のレベルで明らかにしていく科学です。さらにその知識を活用して、新しい機能・特性をもつ物質を創生していく力量のある科学です。化学は、物質科学の中心であり、理学・工学・農学・医学・薬学・環境学などの多様な学問分野とも深く関わりを持ちながら、現在も発展を続けています。本プログラムでは、化学の基礎知識に加えてSDGs社会実現に必要な物質エネルギーに関する知識も学ぶこともできます。   

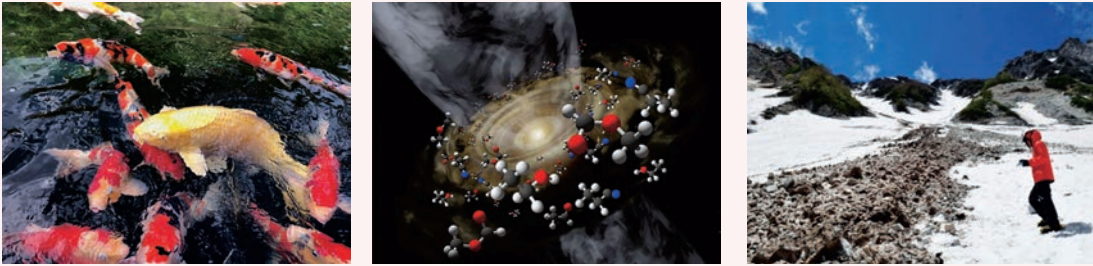


■プログラムの名称「生物学」

概要	本プログラムでは、これまでに蓄積されてきた生物学の知見や技術的背景を確実に学習するとともに、現代生物学の成果とその応用のあり方について探究し、持続可能な社会の構築に貢献できる人材の育成を目標とする。具体的には、次の様な知識の習得と理解をめざす。 ・細胞とは何か、どのようにして機能が維持されるか ・遺伝子の機能と遺伝のしくみ、生命現象を支える生体分子の特徴 ・個体がどのようにできあがっていくか、生物がどのようにして進化し、多様な生物種ができたか ・動物および植物の構造と機能 ・生物はどのように環境に応答しながら恒常性を維持するのか
プログラム紹介	生物学は、生命現象の基本原理を探究する科学の一分野です。DNAやタンパク質などの分子レベルの研究から生態系の研究まで対象は幅広く、医療、農業、環境保護といった分野で重要な役割を果たしています。近年、ゲノム編集やiPS細胞技術の進展により、生命科学の応用範囲は更に広がっており、これらの技術は再生医療や創薬の分野に革新をもたらしています。また、AIなどの先端技術を統合することで、現代社会が直面する感染症や気候変動などの課題にも対応できる可能性が広がっています。このように、生物学は、医療や環境、産業など多岐にわたる分野に多大な貢献を果たしており、未来の社会を支える学問として進化し続けています。 生物学プログラムでは、生命現象の理解を深め、現代生物学の基礎から応用に至るまで、広範な知識を習得することができます。生物学プログラムでマイナーを学ぶことにより、生物学の基礎的素養と、生物学の知識を実際に活用する態度を身につけることができます。 



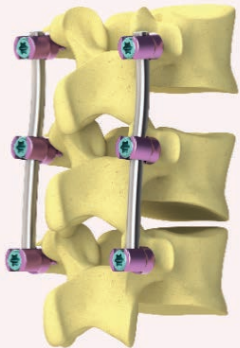
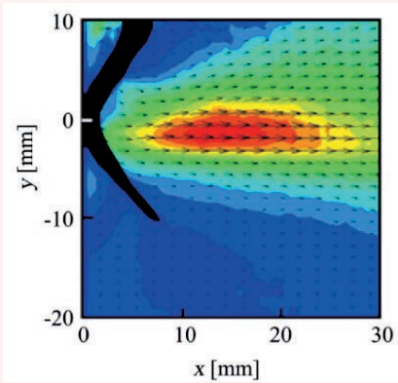
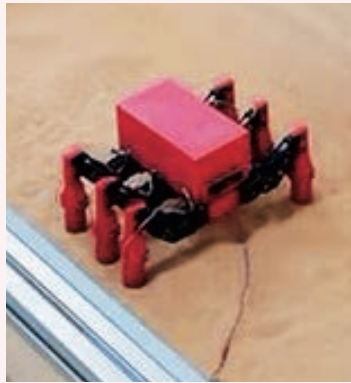
■プログラムの名称「自然環境科学」

概要	自然環境と人間の好ましい共存関係を探求するには、理学全般、すなわち物理学・化学・生物学・地学の基礎学力を身に付け、自然現象を多角的な視点から総合的に理解する能力を培うことが必要である。 本プログラムでは、多様で複雑な自然現象のメカニズムを正しく理解するための基礎学力を身に付け、地球規模での様々な問題に取り組むことのできる広い応用力・問題解決能力を備えた人材育成を目指す。
プログラム紹介	自然環境の仕組みや変動を解き明かし、自然環境と人間との好ましい共存関係を模索していくことの重要性は、近年益々その重みを増しています。これらのことを正しく追求していくには、様々な自然現象を自然科学の多角的な視点から総合的に捉える能力が不可欠です。このような背景のもと自然環境科学プログラムでは、自然科学を構成する四分野である物理学・化学・生物学・地学の基礎を身に付けた上で、自然環境を理解する上で重要となる物質科学、地球科学、環境生物学などを学んでいくカリキュラムが組まれています。 本プログラムをマイナー・プログラムとして学ぶことにより、様々な分野の授業科目を履修していくことで、自然科学全般の基礎的素養を身に付けることが出来ます。本プログラムでの学びを通して豊かな自然観が養われると共に、自身のメジャー・プログラムにおいて、新たな理学的発想また多角的な視点のもと、探求を深めることが出来るようになるでしょう。 



■プログラムの名称 「機械システム工学」

概要	本プログラムは、ものづくりの基幹である機械工学分野の教育プログラムである。当該分野に関連した基礎的および応用・学際的な内容について学習することにより、多様な観点に基づいてものづくりを主体的・実践的に行うための能力を修得することを目標としている。 具体的には、以下についての基礎的な能力を身につけることを目標とする。 ・ 機械を構成する部品の強度について評価することができる。 ・ 機械を構成する部品の機能（流体力学的、熱力学的）が理解できる。 ・ 機械の振動特性について理解することができる。 ・ その他、機械工学に関する基礎的な理論、技術を理解することができる。
-----------	---

プログラム紹介	機械工学は、現代社会を支える基盤技術の一つとして、非常に幅広い応用範囲を持つ工学の分野です。自動車や航空機、ロボット、エネルギーシステム、医療機器など、さまざまな製品やシステムにおいて機械工学の知識と技術が活かされています。 機械システム工学プログラムでは、材料力学、熱力学、流体力学、機械力学などの基礎知識を学び、実際の設計や製造プロセスに応用できる技術の基礎となる能力を身につけることができます。機械工学は、ものづくりの楽しさと奥深さを実感できる分野です。 マイナーとして機械システム工学プログラムを選ぶことで、ものづくりに関わる多様な知識を身につけ、さまざまな視点から問題解決力を高めることができます。   
----------------	--



■プログラムの名称 「社会基盤工学」

概 要	社会基盤工学は、私たちの生活や産業活動を支える道路や鉄道、港湾などの交通・物流施設や上下水道などのライフラインの構築、維持・管理に加え、自然災害から生命と地域を守る河川堤防などの防災施設を整備するための知識と理論を学ぶ分野です。近年老朽化が進んで問題となっている施設の更新や長寿命化の技術は、人口減の低成長下での持続可能な社会構築への重要な役割が期待されています。猛威を振るう自然災害を対象とした防災技術に対する要求も高まっています。本プログラムでは、そのような社会の要請に応える技術のベースとなる応用力学、水工学、地盤工学、コンクリート工学等に関する基礎知識を学修し、まちづくりを理解し、測量や設計、製図の技法を習得します。
プログラム紹介	本プログラムでは、信濃川大河津分水記念碑に刻まれた「万象ニ天意ヲ覚ル者ハ幸ナリ 人類ノ為メ 国ノ為メ」を理念として、人々の安全・快適で持続的な暮らしを支える社会基盤施設を計画、設計、維持管理するために必要な基礎的な知識と技術を修得し、ならびに自然環境との調和や人類の幸福を追求し、実践できる人材を育成することを目的としています。専門分野は工学における社会基盤工学（土木工学）となります。専門分野の学修では、1・2年次は専門分野の基礎および基幹をなす内容を学びます。3年次には専門分野の実験・実習に取り組みます。また、他者との協働を進める力や、やエンジニアリングデザイン能力を養成することにも力を入れています。少人数のグループにより、橋を題材とした土木構造物の基本構想・設計の立案や、社会資本整備事業における調査・計画、設計、施工計画、維持管理計画の立案に取り組み、その成果を発表・討議することを通して、社会を構成する市民との対話・コミュニケーション能力の養成にも取り組んでいます。社会基盤工学・土木工学を学ぶことを通して、工学技術者として時空の広い視野や倫理観、自然環境や地域社会に対する工学技術者としての責任感を養うことができます。

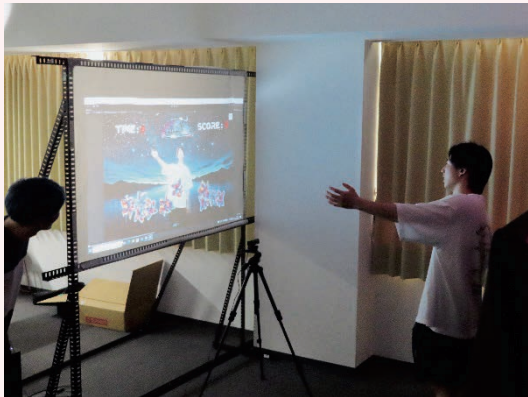


■プログラムの名称「電子情報通信」

概 要	豊かな未来社会を築くために、様々な産業分野においてハードからソフトに至るまで多方面から電子情報通信工学の知識や技術が求められている。本プログラムは、現代のあらゆる社会生活に必要な不可欠な幅広い科学技術分野に対応した知識と応用力、産業の更なる発展を牽引できる創造性を兼ね備えた人材育成を目指している。本プログラムでは、このような社会の要請に対応して、「通信システム分野」、「電子デバイス分野」、「光エレクトロニクス分野」、「電気エネルギー分野」の基礎から応用に至るカリキュラムに沿った学修で、国際的にも通用する確かな学力と創造力を身につけることができる。
プログラム紹介	電子情報通信工学は、未来の社会を支えるために欠かせない技術や知識を学ぶ分野です。スマートフォンやパソコン、テレビ、医療機器、自動車、新幹線など、私たちの生活を便利にしている様々な製品や技術が、この学問と深く関わっています。電子情報通信工学は、ハードウェア（機械や装置）からソフトウェア（プログラムや仕組み）に至るまで幅広い内容を扱い、多くの産業で必要とされる知識を提供します。 電子情報通信プログラムは、このような幅広い技術分野で活躍できる人材の育成を目指しています。プログラムのカリキュラムでは、電子情報通信工学の専門分野について、基礎から応用まで段階的に学ぶことができます。本プログラムでマイナーを学ぶことにより、他分野との融合などより幅広い視点で課題解決に取り組む力を身につけることができます。 



■プログラムの名称 「知能情報システム」

概要	本プログラムでは、知能情報システムと地球・人間・社会との関わり合いの中で生じている様々な課題を解決するために、プログラミング、ソフトウェア、ハードウェア、ネットワーク等の知能情報システム分野の技術・知識を幅広く身につけることを目指す。
プログラム紹介	近年、人工知能、IoT、ビッグデータ、ロボット等の飛躍的な技術革新に伴い、多くの産業分野において、当該分野の専門性だけでなく、技術革新に対応できる高い情報技術を併せ持つ人材の育成が急務となっています。 知能情報システムプログラムでは、プログラミング、ソフトウェア、ハードウェア、ネットワークなどの基礎的な科目を学び、さらに、人工知能、IoT、ビッグデータ、ロボットなどに関係する専門的な科目を学ぶことにより、情報技術を活かすための知識に加え、情報技術を活かして様々な課題を解決するための態度を身に付けることができます。  

パッケージ型マイナーの一覧については、全学分野横断創生プログラム（NICE プログラム）のウェブサイトを参照してください。
<https://www.iess.niigata-u.ac.jp/niceprogram/index.html>



■プログラムの名称 「化学システム工学」

概要	工学系の化学は、エネルギー資源やあらゆる分野で必要とされる材料を創製・供給すること、および環境汚染を防止し、環境を修復することにより人類の安全、健康、福祉に貢献する使命を担っている。このような社会的要請に応えるために、本学科では、ナノテクノロジーを駆使した新物質や新材料の開発および生産工程に関与する技術者・研究者の養成をめざして、バイオ、環境、エネルギー関連を含めた化学的生産に関する基礎から応用まで幅広い教育研究を行っている。 入学から 2 年第 1 学期を中心として、化学技術者・研究者としての基盤を養成する。2 年第 2 学期より、応用化学コースと化学工学コースの二つのコースを設け、技術者としての共通基盤に加えてさらに専門的な知識・技能を修得させ、専門的問題解決能力を養成するための少人数教育を行う。応用化学コースでは、新物質・新素材の設計開発ならびに合成・分析手法の確立に中心的な役割を果たす化学技術者・研究者を養成する。化学工学コースでは、材料・製品の開発から工業的生産、廃棄物処理に至るまでの要素技術やプロセスの開発と操作に中心的な役割を果たす化学技術者・研究者を養成する。
プログラム紹介	化学システム工学プログラムでは、化学を基礎とし、社会ニーズに適合する化学物質の創造から持続可能な工業生産までを、応用化学および化学工学の視点から教育・研究します。対象は新素材、資源、エネルギー、環境などの幅広い分野にわたり、無機・有機・高分子材料、化学分析、エネルギー転換、工業生産、反応装置工学、環境保全などを扱っています。入学から 2 年次前半までは工学一般および応用化学と化学工学の共通基盤を学び、2 年次後半からコースに分かれます。応用化学コースでは化学的手法による新物質創造に関する科目に、化学工学コースでは物質生産の高度化に関する科目に、それぞれ重点を置いて学びますが、2025 年入学生より講義科目は両コースで共通としてあります。講義科目の共通化を進めることで、このプログラムでは暮らしを豊かにする化学に貢献する人材として、 「エンジニアリングセンスをもった応用化学者」 「ケミカルマインドを持った化学技術者」 を養成します。これは、応用化学者としては単に化学反応に詳しいだけではなく、その化学反応を利用して実際に社会に役立つ「化学製品」に至るまでの製造の道筋を考えるエンジニアリングセンスを持った人材を目指し、化学技術者としては、単に化学プラントの設計をするだけでなく、その中の化学反応を熟知して最適かつ安全な設計・運転を考える人材を目指すことになります。 このプログラムの学修で身につく力は次のようにまとめられます。 ●物質の本質を見極める力 ●化学を応用する創造力 ●夢を実現する化学技術



■プログラムの名称 「材料科学」

概要	多様化する産業構造とそのニーズに対応するために、工学を俯瞰する広い視点と基礎的な材料科学を身に付けた人材を育成する。すなわち、複雑化した工学ならびに材料科学の課題から問題点を抽出して解決できる人材の育成を目指す。
----	--

プログラム紹介	材料科学マイナープログラムにおいて基本理念を実現するため、物理と化学を基盤とした基礎的カリキュラムを編成しています。材料科学マイナープログラムには2単位の科目を14科目開設しています。これらは1科目を除いて材料科学プログラムで2年生終了時まで開設されている科目で、比較的学修しやすいように構成されています。これらの中で物理学に対するものが「基礎解析力学」、「基礎電磁気学」、「基礎量子力学（工）」、「基礎統計物理」、「受動電気回路素子論」、「物理数学」であり、化学に対するものが「基礎無機化学」、「基礎有機化学」、「基礎材料物理化学」、「基礎材料組織学」、「材料分析化学」、「高分子科学」、「工業生化学」となっていて、「計測工学」はいずれにも関連する科目となっています。 履修方法として、物理学と化学に関する科目を履修すると、物理学あるいは化学に関する科目を重点的に履修する方法が考えられます。どのように履修するかは皆さんが何を学びたいかによって異なりますが、皆さんにとって学修するモチベーションを維持できるように履修するのが良いように思います。 ニオブ酸とニオブ酸水素化物TiNb2O7とニオブ酸水素化物TiNb2O7の結晶構造 ニオブ酸とニオブ酸水素化物TiNb2O7とニオブ酸水素化物TiNb2O7の電子状態 人工光合成の模式図
---------	---



■プログラムの名称「建 築 学」

概 要	住宅や集合住宅、子ども園、図書館、劇場、オフィスビルなどの施設、それらが集合した都市について、計画し設計を進めるうえで不可欠となる基礎知識を学ぶ。建築学の対象分野には建築計画、建築構造、建築環境工学、都市計画の4つがあり、建物を実現するためには各分野の知識だけでなく、それらを空間的に総合する能力が必要となる。そのために科学的な知識の他に、倫理、社会、芸術に関する幅広い関心が求められる。建築学に特有の空間的に総合化する能力があれば、建築設計はもちろん、環境との調和や地域社会に関わる問題の解決など多様な分野での活躍が可能となる。
-----	--

プログラム紹介	建築は衣食住の住にあたり、人間が生きていくために不可欠なものです。建物をつくる仕事は最古の職業と言われており、今後も人間が存在する限り存続します。 現代の社会では、多様性の尊重につながる建物や町への期待が高まっています。誰もが安心して気持ちよく過ごせる場所、それを実現するためには、たんに雨露を凌ぐことができればよいのではなく、一人一人にとって「尊厳が守られている」と感じられる場所であればなりません。国際的に21世紀における建築の目標となっています。 建築学プログラムの開講科目では、現代の科学技術を駆使して災害時にも安心して住み続けられる物理的な強さを合理的に捉えて建物の新築や改修の設計に反映させていく知見を学ぶことができます。また、実際の歴史ある都市や建物の実測から一人一人が落ち着いて街とつながって利用できている場所の空間的・社会的要件を把握していく方法を学ぶこともできます。このように、建築を支える科学的な素養と人の暮らしを空間的に把握する力との両方を建築学プログラムのマイナーで学ぶことができます。これにより、建築にとどまらず、これからの社会に必要とされている、人の活動の場のあり方を総合的に発想する力を身につけることができます。
---------	--



■プログラムの名称「生物資源科学・流域環境学」

概要	植物ならびに動物の生産を基盤とした経済活動である農業の基礎知識を習得し、地球規模から見た現在の農業について理解する。上流域の森林から中山間地を経て下流域の水田地帯に至る一連の流域における資源・環境・防災の諸問題を解決し、流域管理の視点を習得する。
プログラム紹介	土・稲・畑作物・産業動物を学べます。全国有数の農業県である新潟の農村を理解することは、日本や世界の農林業問題を考える第一歩となります。花や果物、野菜、穀物、動物、ウイルスまで、多くの生命現象について学べます。動植物が持つユニークな特徴を明らかにすることは大変ですが、努力の末に得られた成果は大きな喜びをもたらします。 人と自然の共生を考えることができる、「縁の下の力持ち」になりましょう。その“力”は、河川上流の森林地帯から中山間地を経て下流の平野部に至る流域を「人の生活」と「資源の循環」の大きなまとまりとしてとらえ、地域の自然環境と調和した持続的な農林業を可能にする力です。そのために、持続的な森林管理と生態系の保全、食料生産の基盤整備、および情報ネットワークの活用に関する幅広い専門知識と技術を学修します。 このプログラムで農業・畜産・農村と森林・林業を多角的に考えることができる能力を身に付けよう！  

パッケージ型マイナーの一覧については、全学分野横断創生プログラム（NICE プログラム）のウェブサイト参照してください。
<https://www.iess.niigata-u.ac.jp/niceprogram/index.html>



■プログラムの名称「応用生命科学・食品科学」

概要	微生物・植物・動物の生命現象を分子や細胞のレベルで理解し、生物の持つ様々な機能を開発・応用するための知識、人の健康維持を目指した食品および栄養に関する幅広い知識、人間生活や地球環境保全に関連の深い土壌の働きや植物生理と肥料および植物成分の科学的利用に関する知識を修得する。
プログラム紹介	応用生命・食品科学プログラムは、食と健康、また生命現象の基礎や解明について科学的に学ぶカリキュラムです。 応用生命科学とは、微生物、植物、動物等を研究対象として、遺伝子、タンパク質、生理活性物質等、生体分子および細胞の構造／機能、生物のしくみについて先端機器を使った高度な化学分析やバイオテクノロジー、ゲノムサイエンスの手法を駆使した研究を行い、これを応用して新しい機能物質の生産や生物機能の改変を行う学問です。 また、食品科学とは栄養価、化学的特性、美味しさや健康機能、メカニズム、食品加工、衛生、それらの評価法等に関する学問です。 応用生命科学・食品科学プログラムでは、これらの基礎や高度な解析技術等、最新の知見を学べる授業を開設しています。応用生命科学・食品科学プログラムでマイナーを学ぶことにより、最新のバイオサイエンスの状況や、食品の安全・安心、美味しさ、評価法等の基礎を身につけることができます。  



■プログラムの名称「ヘルス・マネジメント」

概要	人々の健康の維持・増進、健康寿命の延伸に関心があり、国内外の地域コミュニティにおいて、生活環境、栄養や衛生習慣等の複眼的視点から、生活の質向上に貢献できる人材養成を意識したプログラムである。多様な活動の基盤となる「健康」を意識したコーディネーターとしての素養を持った人材育成を目指す。
プログラム紹介	このプログラムは、私たちの生活と健康に直結する保健学を基盤とした学問です。この分野を学ぶことは、単に知識を得るだけではなく、人々の健康生活を良好にし、社会全体の活性化、未来を変える力を手に入れることでもあります。 たとえば、疫学や感染症対策を学べば、世界規模での健康問題を解決するための一歩を踏み出すことができます。さらに保健学は、予防や健康の維持に重点を置いています。そのため、病気になる前にどうすれば健康を守れるのか、人々が健康で幸せな生活を送るためにどのような社会環境が必要かを探求します。この視点はとても実践的で、日々の暮らしにも直結しています。また医療AIの進歩や技術革新、人のメンタルヘルスやウィメンズヘルスなど、色々な視点の学びができます。 ヘルス・マネジメントをマイナーとして学ぶことにより、学習者自身の健康管理にも役立つ知識が身につきます。 医療とAugmented Reality 海外の医療現場



■プログラムの名称「アグロ・フードアソシエーツ」

概要	新潟県及び新潟市を初めとする県内市町村の産業や暮らしの改善に関心を持ち、地域に潜む課題解決や地域活性化及び産業振興に積極的に関与できる人材を本プログラムにおける新潟創生人材とする。その中でも「食・農と社会の関係性を科学的な視点で理解する素養を持った人材」の育成を目指す。
プログラム紹介	新潟は、西は日本海、東は越後山脈に囲まれた広大な越後平野に立地しています。その恵まれた自然環境を活かし、新潟はコシヒカリに代表される美味しいお米やさまざまな農産物を生産する日本有数の食料生産地になっています。枝豆や洋梨、キノコなどの生産は全国トップレベルですし、食料ではありませんがチューリップやユリの切り花の出荷も盛んです。泳ぐ宝石と言われる錦鯉の発祥の地である山古志も新潟にあります。 また、新潟で生産された農産物を食品に加工する地元企業も数多く存在することから新潟県の産業別製造品出荷額の第1位を食品産業が占めており、新潟は我が国有数の「食づくり」地域でもあります。中でも新潟の米菓や包装餅は全国シェアの6割以上を占めており、全国をリードする産業です。蒲鉾やちくわなどの水産練り製品の製造出荷額も全国1位です。また、新潟大学には日本酒学センターが設置されていますが、新潟県の日本酒の製造量は全国3位を誇っています。 しかし、今でこそ広大な農地が広がる新潟ですが、昔は農業に適さない沼地だったのをご存知でしょうか。昭和の初めまで新潟の米は、米が大好きな鳥でさえまたいで通る「鳥またぎ米」と呼ばれ、まずい米として有名でした。この状況を大きく変えた一つの要因が大河津分水や関屋分水、新川といった分水路や排水機場等の大規模な治水工事です。農業に適した環境づくりの結果、今の新潟があるのです。 このように、新潟は「農」と「食」を身近で学ぶ絶好の場所です。このプログラムでは「農」と「食」を社会と結びつけるさまざまな科目を準備しています。あなたも私たちに身近で関わりの深い「農」と「食」について学んでみませんか。



■プログラムの名称 「ことづくり・マネジメント」

概 要	日本は天然資源に乏しいため、海外から輸入した原材料を用いて付加価値の高いモノを作り、それを輸出することで生活の糧を得てきた。しかし現代社会にあつては、ただ単にモノを製造するだけでは価値を生み出すことはできない。これからの製造業に求められるのは、生産性や技術力の向上のみならず、社会や経済、文化とのつながりの中で新たな価値を発見し、創造すること、すなわち、産官学のあらゆる資源を有機的に結合したイノベーションである。本プログラムでは、従来型の「ものづくり」から「ことづくり」によるイノベーション創出の概念を修得すると同時に、それぞれの地域に特有の産業構造や文化、慣習に基づいた「地域経営」に貢献しうる視野の獲得を目指す。
プログラム紹介	かつて日本はものづくり大国とも呼ばれ、日本の生み出した工業製品は世界中を席巻してきました。トランジスタラジオ、ウォークマン、カメラ、クォーツ式腕時計、低燃費自動車…。これらのモノは、ただひとつのモノではなく、様々な生活や経済活動、政治や文化、歴史の文脈、法制度や規制と関連しあいながら、より高い価値、すなわちイノベーションを私達に提供しています。しかし今、私達の生活を便利にしているモノに「日本生まれ」はどれほどあるでしょうか。1つの分野に特化した学びから生まれるそれは「単なる」モノづくりであって、「ことづくり」ではありません。本プログラムは、皆さんが多様な視点と幅広い視野を持ったイノベーターとなるために、技術（エンジニアリング）に軸を置きながらも、自然科学、人文社会科学（特に経済学、経営学）と関連づけて価値を生み出す「ことづくり」を学ぶ構成になっています。そして教室で学んだ知識を、インターンシップ等の実践科目の中で実際に応用、展開して定着を図るとともに、さらなる未知の課題発見プロセスへと誘います。 是非とも皆さん自身でイノベーションへの扉を開いてください。 ■自分は理系だと思っている皆さんへ： 理系または技術系の知識だけではイノベーションがほど遠いことを理解し、新たな世界を切り拓く「高度な教養」を身につけることの大切さを感じてください。ちょっとした視野の広がりがあるあなたをイノベーターにしてくれるでしょう。 ■自分は文系だと思っている皆さんへ： ものづくりは理系や技術系の専売特許ではありません。どうか「食わず嫌い」にならないでください。皆さんの学習分野にほんの少しの技術的、自然科学的知識を融合させるだけで、これからの人生を素晴らしく豊かにすることを学んでください。



■プログラムの名称「コミュニティ・マネジメント」

概要	地震や風水害、雪などの厳しい自然条件や災害と折り合いをつけながら、豊かな郷土を築き、維持・発展している新潟の地域とそこで活動する人たちに学び、地域の素材を発見し磨き育て上げる力、自助・共助・公助を考え合わせながら人と人とをつないでいくことのできる力を有する、コミュニティ・コーディネーター、災害ボランティア・コーディネーターの素養を持った人材育成を目指す。
プログラム紹介	基幹科目は、ボランティア開発論Ⅰ・Ⅱ、コミュニティ開発論Ⅰ・Ⅱとなります。 ボランティア開発論Ⅰでは、ボランティアのスキルとマインドの育成が基本となります。座学として災害ボランティアの実際を学びます。実践として、コミュニケーションスキル、ファシリテーショングラフィック（FG。話し合いの記録手法ですが、議論の進行を助ける機能があります）などの能力を高める活動を行います。災害ボランティアは災害が起きて初めて動くものではなく、平時の活動も重要になります。地域をあるくことで、様々な気づきを得て、それらを生かしていく方策を協働して探ることも行います。活力ある地域の活動に参加し、その要因を体感するスタディツアーも行います。 これらの学びを基にして、ボランティア開発論Ⅱでは、自分たちで地域活動を組織・実践していきます。そのためにプロセスデザインの手法（事業の体系化を図る）も学びます。また、Ⅰとは別の地域にスタディツアーに行きます。 ボランティア開発論Ⅰ・Ⅱを学んだ翌年度（以降）は、コミュニティ開発論Ⅰ・Ⅱを学びます。プロセスデザインを深め、ソシオマネジメント（社会の仕組みを作っていく・変える考え）を学びます。コミュニティ開発論Ⅰ・Ⅱの時間割上の講義以外に、ボランティア開発論Ⅰ・Ⅱに学生スタッフとして参加します。講義内容をFGで記録したり、講義の写真撮影とSNSへの発信、受講生のグループ活動への助言など、自らが受けた授業の運営側に回り、授業がどのように作られているかを体感します。 その他の科目はそれぞれの選択でとってもらい、新潟をより深く知り、学ぶ仲間を増やし、使えるスキルを広げていきます。 本プログラムで培う力は、実際に使ってもらうことが大切ですので、学内でも他の授業でのグループ活動、部活動・サークルの運営などで、もちろん学外でも活かしていただください。



■プログラムの名称「データサイエンスリテラシー」

概要	様々なデータに内在する本質的構造を理解し、数理的思考に基づいて解析・問題解決を行うデータサイエンスは、データ駆動型社会において多様な分野で新たな知見を創出するカギとなることが期待されている。データサイエンスは数理的知識・計算処理技術・問題発見・課題解決からなる複合的な領域であり、旧来の学問分野や領域を越えた学習が必要である。 本プログラムでは、データサイエンスを構成する科目区分を満遍なく学び、メジャーとのかかわりを体系的に理解することで、データサイエンスをメジャー領域で活用するために必要となる知識・技術・能力を修得する。
----	---

データサイエンスはデータを利用して課題を解決する領域です。実課題の解決においては、多様な情報や形式からなるデータを理解し、適切な処理と分析を経て結果を説明する必要があります。本プログラムは新潟大学「データサイエンス・ベーシックプログラム」の発展にあたり、データサイエンティストに必要なとされる応用基礎的な数理知識とプログラミング技術の修得を目指します。

本プログラムは文部科学省MDASH（応用基礎レベル）の認定プログラムです。修了者にはオープンバッジを発行しています。オープンバッジは履歴書や一般的な自己紹介で広く使用されている能力証明フォーマットです。詳細は新潟大学 数理・データサイエンスAIプログラムHPを参照してください。

プログラム紹介



■プログラムの名称「実践データサイエンス」

概要	様々なデータに内在する本質的構造を理解し、数理的思考に基づいて解析・問題解決を行うデータサイエンスは、データ駆動型社会において多様な分野で新たな知見を創出するカギとなることが期待されている。データサイエンスは数理的知識・計算処理技術・問題発見・課題解決からなる複合的な領域であり、旧来の学問分野や領域を越えた学習が必要である。 本プログラムでは、実践的なデータサイエンスの知識・技術・能力を修得するために、企業で6週間のデータサイエンス演習を実施する。また、企業での演習に必要なプログラム技術を事前に指導する。さらに、企業での演習後は振り返り学習を行い、データサイエンティストに必要とされる知識・技術・能力について理解を深める。
----	--

データサイエンスはデータを利用して課題を解決する領域です。実課題の解決においては、多様な情報や形式からなるデータを理解し、適切な処理と分析を経て結果を説明する必要があります。本プログラムはパッケージ型マイナー「データサイエンスリテラシー」の発展にあたり、データサイエンティストに必要とされる高度なプログラミング能力と実践的なデータ分析能力の修得を目指します。特に必修科目「データサイエンス・インターンシップ」では、企業で6週間、実務課題解決プロジェクトに参画し、その成果を発表する経験を通じて、実践的なデータサイエンスの知識・技術・能力を修得することができます。企業での演習の最後には、6週間の成果について発表してもらいます。また、企業で演習を実施する前には、必要なプログラミングの知識・技術について、本学で事前指導を行います。さらに、企業での演習後は、振り返りを行い、データサイエンティストに必要とされる知識・技術・能力について理解を深めます。

本プログラムの修了者にはオープンバッジを発行しています。オープンバッジは履歴書や一般的な自己紹介で広く使用されている能力証明フォーマットです。詳細は新潟大学 数理・データサイエンスAIプログラムHPを参照してください。

自社や自組織の競争力向上につながるデータ活用を実現する。

データサイエンティスト

- ビジネスアーキテクト**
 - データ分析結果から得られる示唆を踏まえた製品・サービスのアイデアの検討
- デザイナー**
 - 顧客・ユーザー理解や製品・サービス検証のための調査、データ取得、分析、および分析結果の見せ方に関する検討
- ソフトウェアエンジニア**
 - 新たなデータ収集・蓄積・解析・可視化の仕組みと既存のシステム等との連携・接続の仕組みの検討
- サイバーセキュリティ**
 - データ管理やプライバシー保護に関するポリシーの検討

実業務でデータサイエンティストに期待される役割（経済産業省『デジタルスキル標準』より）。
※インターンシップ受け入れ企業によって取り組む課題は異なります。



■プログラムの名称 「ジオパーク」

概 要	ユネスコの正式プログラムである世界ジオパークおよび国内のジオパークの活動を牽引する人材養成を意識したパッケージである。持続可能な地域発展を目指すジオパーク活動を理解するために、その基礎として地層、岩石、鉱物、化石などについて学習する。また、私たちを取り巻く自然環境に興味をもち、各種の地質現象を理解する。さらに、ジオパークの拠点施設であるミュージアムでの活動についての理解を深め、大地の成り立ちと人々の暮らしの関係について学ぶ。
プログラム紹介	ユネスコの正式プログラムである世界ジオパークや日本国内のジオパーク活動は、地域の地形・地質と人々との歴史的な関わりについて理解を深めることにより、自然や地質遺産をさらに活用し、持続可能な発展を目指す取り組みです。このマイナー・プログラムは、地質学や自然環境に関する基礎的な知識を身につけることで、ジオパーク活動を牽引する人材の育成を目指しています。 本プログラムでは、地層、岩石、鉱物、化石といった地質学の基礎を学ぶことで、自然環境を形作る大地の成り立ちについて理解します（古生物学A、岩石学A、鉱物学A、地史学A、地史学Bなど）。また、地域の地質現象がどのように私たちの生活に関わっているかについて学び、自然と社会の関係を理解します（地学基礎A、地学基礎B、地学基礎Cなど）。 ジオパーク活動に興味を持つ学生はもちろん、自然環境や観光、地域振興に興味がある方にとってもお勧めのプログラムです。自然科学と社会科学を横断する知識を学びながら、地域と自然を結ぶ架け橋として活躍できる人材を目指しましょう。 



■プログラムの名称 「地域災害環境システム」

概 要	日本は豊かな自然環境の恩恵を受ける一方自然災害も多く、豊かさと災害は表裏一体の関係にある。世界の自然災害は過去20年間で倍増しており、防災・減災や災害レジリエンスの高度化・精緻化が進む一方、人口減・高齢化による地域力の低下など地域の実情に合わせた方策・施策の集約化も必須である。また企業においても環境や社会等に配慮したESG経営が求められており、SDGsの達成に向けこの分野への備えは欠かせない。「地域災害環境 システム学」は自然災害の頻発化・激甚化が予測される時代を迎え、「災害や環境変化に強い地域社会」の構築を目指す新しい学問分野である。
-----	--

プログラム紹介	本プログラムは第2ターム開講の「地域災害環境システム学入門」、第3ターム開講の「地域災害環境システム学演習」を必修としています。両科目とも学内の多様な分野の教員を中心にオムニバス形式で開講されており、学外の専門家もゲスト講師としてお招きする回も用意しています。両科目の担当者を中心に執筆した「自然災害と地域づくり（朝倉書店）」を使用テキストとして、前者は座学形式で、後者は課題解決型の演習形式で、本書のフレーズでもある自然災害を「知る・備える・乗り越える」ための知識・知見の基本を身に付けて頂きます。選択科目はESG（環境、社会、ガバナンス）に関わる3つの区分の科目群から選択する形式で、それぞれの興味に応じた専門性を身に付けることで、「災害や環境変化に強い地域社会」の構築に向けた基盤を形成して頂きます。 災害と豊かさは表裏一体 風水害 頻発化・激甚化 自然環境変化 地域力で共存 豊かさ 人口減少 地域力低下 社会環境変化 地球温暖化 災害や環境変化に強い地域社会を次世代に引き継ぐ 知る・備える・乗り越える 自然災害と地域づくり Asakura Shoten 本誌解説・長尾雅博・安田浩博・坂本貴博 高田知紀・豊田光世・村山敏夫・岡本 正 著 朝倉書店
---------	--



■プログラムの名称「ふるさと共創学」

概 要	ダブルホームの地域活動をととして地域づくりに関心を持ち、地域の思いに寄り添いながら地域や社会における課題を探究し、解決に向けて積極的に取り組む人材を育成していくことを目指す。
-----	---

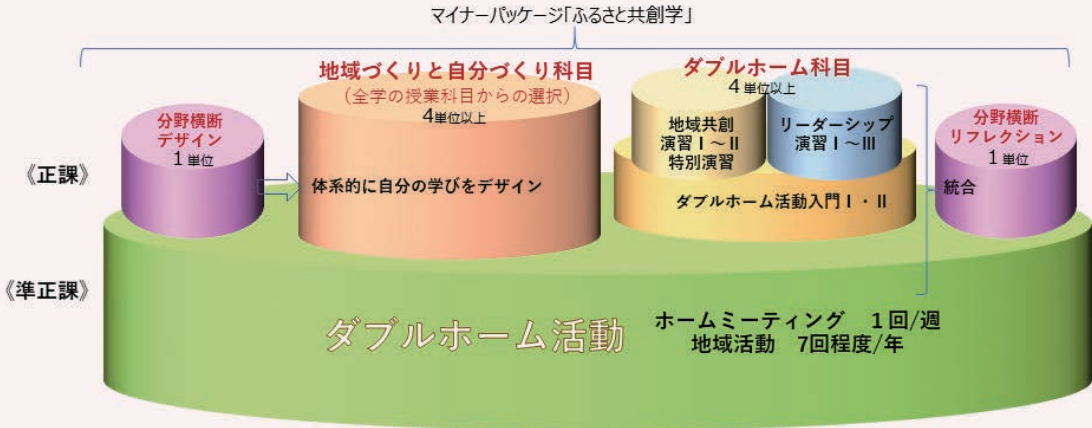
プログラム紹介

ダブルホームは、学生が専門分野の学問を学ぶ学部・学科を「第1のホーム」とし、その枠を越えて集まった学生、教職員が「第2のホーム」として地域活動に取り組むプログラムです。地域や仲間の思いを大切にしながら、正解のない地域課題に学生・教員・職員によるチームで取り組みます。地域の思いと向き合う中で「自分たちに何ができるか」をチームで考え、活動を計画・実践・省察することで、これからの社会生活に必要なシチズンシップ（社会に対する責任感）やチームワーク力を育みます。

ダブルホームは、学部を越えた新しい仲間との交流を深める場となるだけでなく、多様な価値観の人々とのふれ合いから生まれるコミュニケーション能力の向上、生活者の立場で社会課題をみつめることで実感する自分の専門分野や新たな知識の重要性の認識といった様々な効果が認められています。地域で活動するための心構えを身につけ、地域で活動する中で大切だと感じた知識やスキルを修得するための授業科目を開講しています。これらの学習を通して多様な価値観を認め合いながら協働して地域を共に創る仲間になりましょう。

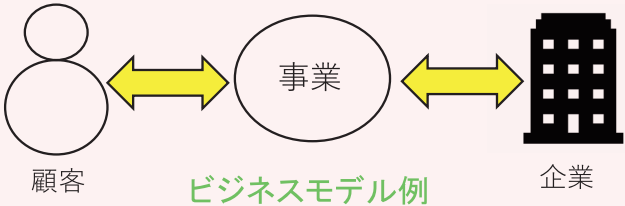


マイナーパッケージ「ふるさと共創学」





■プログラムの名称「MOT基礎」

概要	組織経営と技術開発の両分野は、現代の日進月歩の企業社会において、大変重要な中枢部分を形成しており、両分野とも互いの基礎知識を有する人材確保を必要条件としている。そのような状況を背景として、本カリキュラムでは、独自の開設科目に加え、経済・法・理・工・農などの各分野で開設されている科目を活用して、技術経営の基礎を修得できることを目指すプログラムである。
プログラム紹介	MOT（management of technology）とは、技術経営のことで、技術を経営の立場からマネジメントすることをいいます。すなわち、企業価値の継続的拡大のため、企業・組織の持続的発展のために、技術を含めて総合的に「経営管理」を行うことです。MOTの原点は、巨大プロジェクト『アポロ計画』を実施するために「技術のマネジメント」を考えたのが始まりとされています。1960年に米国航空宇宙局（NASA）が米国マサチューセッツ工科大学（MIT）のMOTリサーチに予算を出し、アポロ計画関連の技術マネジメント研究を依頼しました。大学におけるMOT教育は1980年代に米国のボストンにあるマサチューセッツ工科大学の経営大学院で開始したのが最初と言われています。 MOTプログラムでマイナーを学ぶことにより、法律・技術・経営の知識を融合し、それぞれを有機的に活用することで、理系・文系の両面からの思考ができ、ビジネス分野への貢献ができるようになります。また特許やその申請に対して理解を深めることで、特許取得に必要な専門知識とともに、将来の「MOT」関係の修得の基礎が身に付きます。  アポロ計画 media.gettyimages.com  顧客 事業 企業 ビジネスモデル例



■プログラムの名称「農学から始めるDXとGX」

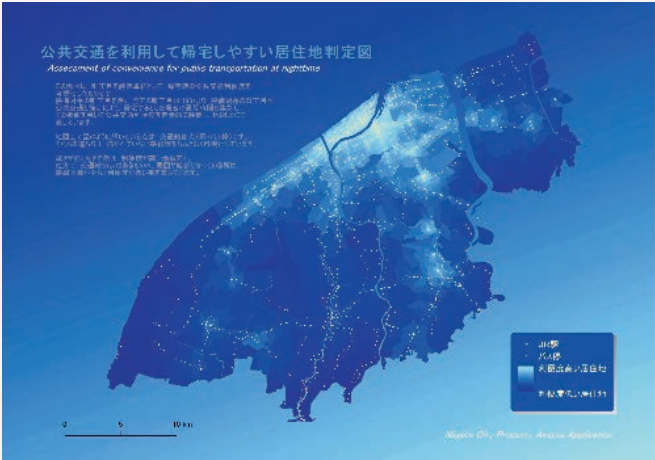
概要	社会全体でデジタル化に向けた取組が加速するなか、デジタルトランスフォーメーション（DX）という言葉が社会に急速に浸透している。農業・食関連産業においてもDX実現に向けてさまざまな取組が進められている。本プログラムでは、農業生産とそれを支える生産基盤、環境の視座からDXについて知識を修得するとともに、温室効果ガスの排出削減と産業競争力向上の両立を目指す取組みであるグリーントランスフォーメーション（GX）について知識を修得する。
プログラム紹介	農学は農作物の生産、食品加工、流通、人間の健康や環境に関する研究まで、私たちの社会に密接に関わる学問分野です。ニュース報道などで農業従事者の減少や高齢化が著しいことを聞いたことがある人は多いでしょう。では、そうした課題を解決するために、先端的な農業の現場ではどのような対策がとられているのでしょうか。 本プログラムでは、わが国の農業の現状とその課題を認識することを出発点として、デジタル技術を活用した農作業の省力化、効率化、情報の可視化に関する講義、実習科目とともに、農業生産の過程で取得したデータに基づくデータサイエンスを体験できる科目群から構成されています。さらに、農業生産と環境を関連付けて考えられる人材を育成するために、最新鋭の環境計測機器を導入したグリーントランスフォーメーションに関する知識を習得することができます。 



■プログラムの名称「GIS（地理情報システム）」

概要	地理情報システム（Geographic Information System：GIS）は、デジタル化された地図情報を基に、複雑に構成された社会空間および自然空間における諸問題をコンピュータ上で解析し、問題やその解決方法を提示するためのツールです。GISの応用範囲は、災害、医療、農業、経済、資源、資産マネジメントにとどまらず、最近では自治体で多くの利用がみられます。Google Mapsに代表されるようにGISは日常生活で必須の社会基盤として整備されている一方で、それを支える技術者や高度なデータ活用人材であるデータサイエンティストが不足しています。 本プログラムは社会経済活動において求められる技術者やデータサイエンティストの育成を目的として、夏休みと春休みの3日間の集中講義で実施される2つのGIS演習科目に加え、GISに関わる全学の既設科目を活用し、幅広い分野におけるGISの基礎理解、ソフトウェアおよびデータの操作、そして研究プロジェクトのデザイン能力を促す教育プログラムを提供します。
----	--

プログラム紹介	地理情報システム（Geographic Information System: GIS）は、人文社会科学のみならず自然環境や自然災害などさまざまな分野で幅広く活用されている革新的なツールです。本プログラムでは、デジタル化された地図情報を基に、複雑な社会空間における諸問題を可視化し、解析し、解決方法を策定するためのGISの基礎の修得を目指します。 具体的な学習目標は、GISに関する概念的理解、様々な学術分野におけるGISの応用例の学習、GISソフトウェアと空間データの基礎的操作スキルの習得、身近な問題や専門分野でのGISを用いた研究プロジェクト実施能力の獲得です。 本プログラムは、夏休みと春休みの3日間の集中講義で実施される2つのGIS演習科目に加え、GISを利用する上で必要な地理空間情報に関わる講義を通して、自治体や民間企業などでGIS技術者として活躍できる基礎能力を身につけます。 変化の激しい現代社会において、GISスキルは多様な分野で求められる重要な能力です。高等学校でもGISを学習するようになってきています。ぜひマイナープログラム「GIS（地理情報システム）」に参加し、将来の可能性を広げてください。このプログラムを通じて、複雑なデータを視覚化し、革新的なソリューションを生み出す能力の獲得を目指しましょう。
---------	--



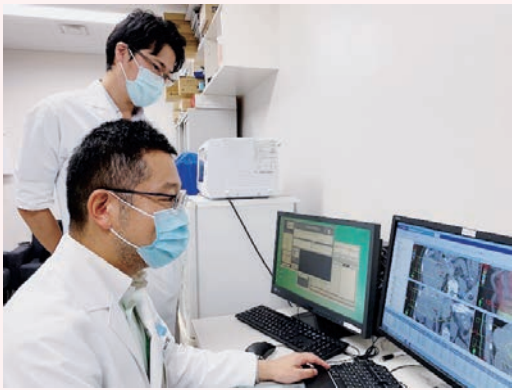
公共交通の利便度評価図

パッケージ型マイナーの一覧については、全学分野横断創生プログラム（NICE プログラム）のウェブサイト参照してください。
<https://www.iess.niigata-u.ac.jp/niceprogram/index.html>



■プログラムの名称「医学物理学基礎、医学物理学基礎＜発展＞」

概要	現代の医療はX線CT、MRI、画像誘導放射線治療装置等の物理学を応用して開発された多くの先端技術に支えられており、これら先端技術の役割は益々大きくなってきています。医学物理学は基礎科学である物理学を医療の発展に貢献することを目的とする学問分野であり、医学物理士は専門知識や技術を生かし医療の現場で実践する役割を持っています。 「医学物理学基礎」は、医学物理学の興味を持つ学生が、関連する基礎分野について学び、「医学物理学基礎＜発展＞」は、放射線治療分野の医学物理士を目指す学生や医学物理学領域の研究開発に関心を持つ医理工学生が、「医学物理学基礎」の学びを発展させて医学物理学の基礎を学ぶプログラムです。医学物理学は物理学と放射線技術科学を基礎とし、それぞれの分野の科目を学ぶことで医学物理学の基礎を修得します。
----	---

プログラム紹介	本プログラムは、放射線などの物理現象を診断・治療の医療に応用する分野として発展してきた「医学物理学」の学問領域への導入を図り、医学物理学分野の大学院への接続を考慮したプログラムです。近年、特にかん治療における放射線治療の役割は増大し、その放射線治療の適切な実施のための専門医療職者として、医学物理士が注目されています。治療分野の医学物理士の業務は、放射線治療計画に用いられるビームデータ測定・管理や、線量分布の最適化、治療装置・関連機器の性能保証、治療精度検証、そして研究開発、教育、患者に対する医学物理的質問への対応などです。 本プログラムは「医学物理学基礎」「医学物理学基礎＜発展＞」の二段階の構成からなっています。「医学物理学基礎」は、医学物理学の興味を持つ学生が、関連する基礎的な科学、放射線、医学物理について学ぶプログラムです。「医学物理学基礎＜発展＞」は放射線治療分野の医学物理士を目指す学生や医学物理学領域の研究開発に関心を持つ医理工学生が、「医学物理学基礎」の学びを発展させ医学物理学の基礎を学ぶプログラムで医学物理学分野の大学院への接続を視野に入れ、学部レベルにおいて医学物理の基礎を学びます。 また、本プログラムにおける専門科目履修には、五十嵐キャンパスと旭町キャンパス結んだ簡易遠隔授業システムを使用した授業を実施します。遠隔授業システムの受講には入門科目「医学物理学入門」の受講及び「医学物理学基礎＜発展＞」の履修登録を条件とします。  医学物理士へのキャリアパス この図は、医学物理士になるためのキャリアパスを示しています。最上段は「医学物理士認定 (Clinically Qualified Medical Physicist)」です。その下には「医学物理臨床研修 (レジデントコース・機構認定2年)」があり、これは「物理・工学系博士 (Ph.D. in physics)」と「放射線技術科学系博士 (Ph.D. in health sciences)」の両方から進めます。さらに下には「医学物理士認定試験受験」があり、これは「物理・工学系修士 (M.S. in physics)」と「放射線技術科学系修士 (M.S. in health sciences)」の両方から進めます。最下段には「機構認定医学物理教育コース 修士 (U.S. in Medical physics)」があり、これは「物理・工学系修士」から進めます。図の両側には「メドビー」のロゴがあります。  IMRT治療計画立案時の様子（医学物理士の仕事） この写真は、医学物理士がIMRT治療計画立案を行っている様子を示しています。前景には、マスクを着用した男性が複数のモニターを見ながら作業しています。背景には、別の男性が立ち、作業を見守っています。モニターには、治療計画の可視化された画像が表示されています。
---------	---



■プログラムの名称「核エネルギー・災害科学」

概 要	平成29年に原子力委員会より示された「原子力利用に関する基本的考え方」では、責任ある体制のもと徹底したリスク管理を行った上での適切な原子力利用は必要との考えを示している。しかしその適切な利用に当たっては安全性の確保が大前提であり、安全に影響する自然災害及びそのリスクマネジメントや災害医療に関する高度な科学技術的知見を有する原子力規制人材の育成が必要とされている。 当マイナー・プログラムは、原子力規制分野への大学院進学・就職などのキャリア形成を目指す者が備えるべき基礎的知見を有する人材の育成を目的として、原子力規制、自然災害、災害リスクマネジメント、災害医療の基礎を学ぶものである。これらの分野について興味を持つ学生について、主専攻によらず広くその受講を歓迎する。 なお当プログラムは、原子力規制庁の令和4年度原子力規制人材育成事業に採択された「原子力科学・災害科学の融合による高度原子力規制人材の育成」事業の一環として行うものである。
プログラム紹介	皆さんは原子力について、どのようなイメージをお持ちでしょうか。「放射線が怖い」「地球温暖化対策に良い」「本当に安全なの?」「事故が起こったらどうすればよい?」など、さまざまな声が聞こえてきそうです。本学には原子力を主専攻としている学生はいないため、「よく分からない」という方も多いかもしれません。 一方で、日本では1945年に広島と長崎に原子爆弾が投下され、2011年には福島第一原子力発電所事故が発生しました。また、新潟県には東京電力柏崎刈羽原子力発電所があります。このような歴史や現状を踏まえ、日本の、しかも原発立地県に位置する本学の学生には、原子力や放射線、そしてそれに関連する災害科学や災害医療などについてしっかり学んでほしいという思いから、本プログラムを開設しました。 本プログラムでは、原子力や災害科学に関連する講義はもちろん、原子力発電所の見学、医歯学総合病院の被ばく医療訓練、放射線源と検出器を用いた実習、さらには目に見えない放射線をVR（仮想現実）技術で観察する「見える放射線実習」など、多彩な体験を用意しています。 理系のみならず、文系の学生も参加可能です。原子力関連分野でのキャリア形成を目指す方はもちろん、原子力や放射線について知識を深めたいという方の参加も歓迎します。皆さんの参加をお待ちしています。 見える放射線実習の様子 原子力発電所見学



■プログラムの名称「留学×グローバル人材育成」

概要	グローバルな視野を持つ次世代リーダーの育成に貢献することを目的とし、留学を含む多面的な学びを通じて、国際的な視野と実践力を育む包括的なプログラムである。本プログラムでは、留学による「A：国外での実践的なグローバル対応力の養成」、オンライン留学や国際共修及びこれに準ずる学習機会を含むグローバル対応力養成科目による「B：国内での基礎的なグローバル対応力の養成」に加え、英語を含む外国語科目による「C：語学力の強化」を通じて、国際的コミュニケーションや多文化共生を含む汎用能力などの向上を図り、グローバル社会で主体的かつ柔軟に対応できる実践的なスキルと知識を身につけることができる。
プログラム紹介	国際的な情報ネットワークの急速かつ持続的な発展に伴って、多様な人材が国境を越えて協働しながら、イノベーションの創出やグローバル課題の解決に取り組むことが益々必然となり、国の枠組みを超えたグローバルな活動の重要度が増してきています。留学を伴った国際教育は、異文化環境下での自己の目的の実現活動を通じて、国際的コミュニケーションを含む汎用能力や特定の専門能力の向上のみならず、多文化共生を背景とした個性の伸長や人格の形成などの多様な成長においても極めて大きな教育効果が期待されます。本プログラムは、国際的な視野や多文化共生の実践性などを養い、グローバル社会で主体的かつ柔軟に対応できる力を、3つの柱で強化することを目的としています。 【A：国外での実践的なグローバル対応力の養成】海外留学で、異なる文化や価値観の中で留学の目的や計画に係る学習活動や課題解決に主体的に取り組む経験を重ねることによって、実践的なグローバル対応力を育てます。加えて、異文化環境での日常的な学習生活を通じて、多様性・公平性・包括性を含む多文化共生力を養う機会を活用することで、実践的なグローバル対応力の向上を加速化できます。 【B：国内での基礎的なグローバル対応力の養成】オンライン留学科目、日本人学生と外国人学生との国際共修科目等の多様で体系化されたグローバル対応力養成科目の履修を通じて、異なる文化的背景を持つ学生と協働する学習機会や、それに準ずる様々な学習機会の中で、グローバル対応力の基礎的素養を磨きます。 【C：語学力の強化】グローバル活動でのコミュニケーション手段として不可欠な語学力を強化します。英語に加えて、多様な外国語の科目をひとりひとりのレベル及びニーズに合わせて履修することで、自信を持って意思を伝えられる力を養います。なお、授業外で、本学の受入留学生との自由な会話の場を提供する「外国語学習支援スペースFL-SALC（エフエル・サルク）」も活用できます。 本プログラムでは、留学先で、多文化共生のリアルな理解を通じて、国籍の異なる友人をつくり、国際的なネットワークを形成することも可能です。ここで培われた経験と繋がりは、将来の就職やキャリア形成においても大きな強みとなります。本プログラムで、グローバルな舞台で活躍する未来を目指しませんか？



6. アカデミック・アドバイジングについて

(1) アカデミック・アドバイジングとは？

アカデミック・アドバイジングとは、学生自身の学修目的や将来の目標決定・達成を、継続的に支援することです。NICEプログラムでは、**アカデミック・アドバイザー**が、「**学修相談**」というかたちで、学生のマイナー・プログラム履修に関する相談を受け付けています。AAは、学生のマイナーの学びの「伴走者」です。学生は、マイナー・プログラムの履修を始める段階から、修了認定申請に進む終わりの段階まで、何度でも「**学修相談**」を利用することができます。

【相談の具体例】

- ・メジャー・マイナー制のしくみがどんなものかわからないので、全体的に説明してほしい。
- ・自分の考えていることが、マイナー・プログラムとして取り組めるのか確認したい。
- ・やってみたいことがあるけど、どのマイナー・プログラムを選んだらよいかわからない。
- ・マイナー・プログラムの履修登録の仕方がわからない。
- ・所属学部での学びや部活・サークル活動、アルバイトなどとマイナー・プログラムの履修が両立できるか不安に思っている。
- ・学修創生型マイナーとして、自分の興味・関心をかたちにしたいと思っているが、うまく言語化できない。どんな科目を選べばよいかわからない。
- ・パッケージ型マイナーの履修がうまく進んでいないが、どうしたらよいか。
- ・マイナーとして学ぶことの目標が変わった。
- ・学修創生型マイナーの計画を変更したい／計画通りに進んでいないがどうしたらよいか。

(2) 「学修相談」 相談場所・相談受付時間

令和7年度の「学修相談」について、詳細が決まりましたら、学務情報システムからの連絡通知にてお伝えします。また、NICEプログラムのWEBサイトも参照してください。

7. よくある質問FAQ

始めるときに、よくある質問

Q1 マイナーとは何ですか？

A 所属学部で学ぶ専門分野（メジャー）以外の分野が「マイナー」です。
みなさんが専門の学びと並行して異なる分野を学ぶことで、専門に偏らない、複眼的なものの見方や分野横断的な思考を身につけることができます。

Q2 マイナー・プログラムは必ず履修しなければならないのですか？

A いいえ。マイナーは希望者が履修したいプログラムに登録をして、自主的に学修を進めていく制度です。

Q3 学修創生型マイナーとパッケージ型マイナーの違いがよくわかりません。

A 2つは以下のような違いがあります。

	学修創生型	パッケージ型
プログラム開設数	1	48
科目の選び方	自分で選ぶ (自己選択方式)	科目リスト
修了認定単位数	14単位以上	12単位以上
備 考	マイナー支援科目「分野横断デザイン」を受講し、科目リストを含むマイナーの学修計画書を作成する	

Q4 マイナー・プログラムを修了したら、「証明書」はもらえますか？

A はい。各学期の終了時期に、修了認定申請に関して学務情報システムを使って周知しますので、忘れずに確認してください。

修了が認定された学生には、マイナー・プログラム修了証が授与されます。

Q5 せっかく総合大学に入学したので、幅広くいろんなことを学びたいと思っています。ですが、いざ「分野横断」となると、自分に本当にできるのか自信がありません。

A まずは、「分野横断デザイン」を履修して、自分にどんな方向性があるか探ってみましょう。あわせて、アカデミック・アドバイザーに相談してみてください。

Q6 メジャー（所属学部での専門の学び）とマイナーの両立ができるか不安です。

A 新潟大学の多くの学部では、卒業に必要な単位数（卒業要件単位数）が124単位と定められています。そのなかには「専門教育に関する授業科目」という区分のほかに、「教養教育に関する授業科目」や「教養教育に関する授業科目及び専門教育に関する授業科目」という区分があり、学部ごとにそれぞれ所定の単位数を修得することが定められています。

マイナーとして修得する単位数はこのような区分に含めることができるので、マイナーの学修を選択することで極端に多忙になることはありません。ただし、選択した科目の開講スケジュールや成績評価の方法によっては、両立が難しくなることも否定できません。履修科目を選ぶ際には、シラバスをよく読んで、自分の許容範囲を超えないように学修計画をデザインしてください。

Q7 何の講義からとったらいいのか、具体的なことがわかりません。

A まずはNICEプログラム履修ガイダンスに参加したり、このパンフレットを熟読したりするなどして、履修したいマイナー・プログラムではどんな科目を何単位とったらよいか把握しましょう。

それでも何の講義からとったらよいか疑問が生じることがあるかもしれません。そのようなときは、プログラム代表教員やアカデミック・アドバイザーに相談してみるのも有意義です。

Q8 やりたいことがパッケージ型マイナーのプログラムに見つけれません。こうした場合は、学修創生型マイナーを履修すればよいのでしょうか。

A はい。まずは、マイナー支援科目「分野横断デザイン」を履修してください。「分野横断デザイン」は、「自分のやりたいこと」を具体的な科目選択や履修計画の作成を通して、体系的な学びのかたちを作り上げていく科目です。また、アカデミック・アドバイザーに相談してみるのも有意義です。

履修登録のときに、よくある質問

Q9 マイナー・プログラムの履修開始方法を教えてください。始めるときに申し込みなどが必要ですか？

A はい。マイナー・プログラムの履修開始にあたって、学務情報システムでのマイナー・プログラム履修登録が必要です。学務情報システムの「履修」アイコンから、「マイナー学修（副専攻）関連」→「マイナー学修（副専攻）履修状況」へ進み、履修したいマイナー・プログラムの「履修」ボタンを押してください。これで履修登録完了です。履修登録をすることで、「マイナー学修（副専攻）成績情報参照」からマイナー・プログラムの履修状況や単位修得について確認することができますようになります。

Q10 マイナー・プログラムで履修する科目の履修登録方法がわかりません。

A 通常の科目と同様です。学務情報システムから履修登録してください。
パッケージ型マイナーの場合は、科目リストに掲載されている授業科目の中から、その学期に履修する科目の履修登録をしてください。学修創生型マイナーの場合は、必修科目である「分野横断デザイン」の履修登録をおこなってください。

Q11 マイナー・プログラムの科目リストに記載されている科目の時間割やシラバスはどうやって確認するのですか。

A シラバス検索画面（<https://syllabus.niigata-u.ac.jp/>）からご確認ください。

Q12 マイナー・プログラムの科目はCAP制*に含まれるのでしょうか。

A どの科目をCAPに含めるかは学部によって異なります。所属学部の学務係に確認してください。

* 学期ごとに履修登録できる単位数を制限する制度をCAP制と呼びます。

Q13 マイナー・プログラムの科目は卒業要件の単位に含まれるのでしょうか。

A どの科目を卒業要件の単位に含めるかは学部によって異なります。所属学部の学務係に確認してください。

Q14 マイナー・プログラムを複数履修することはできますか。

A 複数履修することができます。ただし、履修登録することができるプログラム数は5が上限です。なお、所属する学部での専門の学び（メジャー）と両立することが重要なので、アカデミック・アドバイザーに相談するなどして大学4年間の学びを計画して、無理のない学修を進めてください。

なお、マイナーの学修は卒業まで続けることができます。

Q15 マイナー支援科目の「分野横断デザイン」や「分野横断リフレクション」は、学修創生型マイナーの履修者だけが対象なのですか？

A 「分野横断デザイン」は全てのマイナー・プログラムの履修を希望している1、2年生が対象です。（学修創生型マイナー、およびパッケージ型マイナー「ふるさと共創学」履修者は必修です）。また、「分野横断リフレクション」は全学部の3年生以上であれば、誰でも履修できます。マイナー・プログラム履修の有無は問いません。

Q16 マイナー・プログラムの科目を正しく履修できているか、また本当に単位修得できているかどうか不安です。履修状況や単位修得状況をチェックできるシステムはありますか。

A 学務情報システムの「マイナー学修（副専攻）関連」ページの「マイナー学修（副専攻）成績情報参照」画面にて履修状況や単位修得状況を確認できます。

Q17 積み重ね履修が可能な科目で修得した単位の取り扱いについて教えてください。

例）英米言語文化演習を4科目履修した場合など、すべて認定対象となりますか。

A 科目リストの「その他特記事項」欄に記載されていますので確認してください。

Q18 1年生です。マイナー・プログラムの履修を2学期から始めたいと思っています。マイナー・プログラムの履修登録は、1学期にしておく必要がありますか。

A いいえ。マイナー・プログラムの履修登録は、各タームのはじめにすることができます。

Q19 新潟大学に入学前に取得し入学後に認定された科目、語学の検定試験の成績により認定された科目は、マイナー・プログラムの対象科目になりますか。

A いいえ。対象科目にはなりません。

Q20 1年生です。マイナー・プログラムの履修登録をしたいと思っています。

すでに科目の履修登録単位数上限（CAP）まで履修登録していますが、マイナー・プログラムの履修登録はできますか。

A はい。マイナー・プログラムの履修登録自体はできます。学務情報システムの「履修」アイコンから、
「マイナー学修（副専攻）関連」→「マイナー学修（副専攻）履修状況」へ進み、登録してください。
これで登録は完了です。

ただし、すでに履修登録できる単位数の上限まで登録している場合は、マイナーとして履修する科目を追加で登録することはできません。つまり、マイナー・プログラムを履修しているからといって、上限を超えて科目の履修登録をすることはできません。

Q21 マイナー・プログラムの履修登録を第3タームにしようと思っています。第1、第2タームに修得した科目の単位をプログラムの修了要件に含めることは可能ですか。

A はい。含めることができます。

パッケージ型マイナーを履修する場合は、指定された科目リストにその科目が掲載されていれば含めることができます。学修創生型マイナーを履修する場合は、自分の考えるマイナーの方向性と関連づけられるものであれば含めることが可能です。学修創生型マイナーの必修科目である「分野横断デザイン」の履修を通して、関連性を説明できるようにしてください。

修了認定申請時によくある質問

Q22 マイナー・プログラムの修了認定申請について時期を教えてください。

A マイナー・プログラムの修了認定申請期間は、各年度の1学期6～7月頃と第2学期12月～1月頃の1か月間です。第2年次第2学期以降に申請できます。学務情報システムを通して申請してください。修了認定申請の開始時期については、学務情報システムを使って周知しますので忘れずに確認してください。

Q23 学修創生型マイナーの場合、修了認定申請をどうすればいいですか。

A 学修創生型マイナーの場合、修了認定申請のためには「分野横断リフレクション」の履修が必須となっています。この科目を履修して、大学でのメジャー・マイナーの学びを振り返り、修了認定申請に必要な「確定版マイナー学修デザイン」を作成してください。

Q24 マイナー・プログラム修了証はいつ受け取ることができますか？

A 修了認定申請後、教務課から認定結果について通知があります。結果通知の次の学期開始日（1学期終了時の申請の場合は10月1日、2学期終了時の申請の場合は4月1日）以降、証明書発行機より各自で発行することができます。

なお、卒業年次学生に限り、卒業日から3月31日までの間、証明書発行機より各自で発行することができます。

Q25 卒業後に、マイナー修了認定申請をすることはできますか？

A できません。

Q26 卒業後に、マイナー・プログラム修了証を発行することはできますか？

A 発行することができます。

卒業日の翌月以降^{*}は、卒業（修了）した学部・研究科の学務係に申請してください。

^{*} 9月卒業の場合は、9月30日に発行することができます。

メモ欄

メジャー・マイナー重複可否一覧表

学部名	学位プログラム名	マイナー・																
		学修創生	心理・人間学	社会文化学	言語文化学	地域文化遺産継承学	法学	政治学	経済学	ビジネス・アントレプレナーシップ	ドイツ語	ドイツ語〈発展〉	英語	フランス語	フランス語〈発展〉	ロシア語	ロシア語〈発展〉	中国語
人文学部	心理・人間学プログラム	A	×	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
人文学部	社会文化学プログラム	A	○	×	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
人文学部	言語文化学プログラム	A	○	○	×	○	○	○	○	○	B	B	B	B	B	B	B	B
教育学部	学校教員養成プログラム	A	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
法学部	法学プログラム	A	○	○	○	○	×	×	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
法学部	法曹養成プログラム	A	○	○	○	○	×	×	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
経済科学部	経済学プログラム	A	○	○	○	○	○	○	×	○	○	○	○	○	○	○	○	○
経済科学部	経営学プログラム	A	○	○	○	○	○	○	○	×	○	○	○	○	○	○	○	○
経済科学部	学際日本学プログラム	A	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
経済科学部	地域リーダープログラム	A	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
理学部	数学プログラム	A	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
理学部	物理学プログラム	A	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
理学部	化学プログラム	A	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
理学部	生物学プログラム	A	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
理学部	地質科学プログラム	A	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
理学部	自然環境科学プログラム	A	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
理学部	フィールド科学人材育成プログラム	A	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
医学部	医学教育プログラム	A	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
医学部	看護学プログラム	A	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
医学部	放射線技術科学プログラム	A	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
医学部	検査技術科学プログラム	A	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
歯学部	歯学教育プログラム	A	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
歯学部	口腔保健福祉学教育プログラム	A	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
工学部	機械システム工学プログラム	A	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
工学部	社会基盤工学プログラム	A	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
工学部	電子情報通信プログラム	A	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
工学部	知能情報システムプログラム	A	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
工学部	化学システム工学プログラム	A	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
工学部	材料科学プログラム	A	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
工学部	建築学プログラム	A	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
工学部	人間支援感性科学プログラム	A	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
工学部	協創経営プログラム	A	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
農学部	応用生命科学プログラム	A	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
農学部	食品科学プログラム	A	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
農学部	生物資源科学プログラム	A	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
農学部	流域環境学プログラム	A	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
農学部	フィールド科学人材育成プログラム	A	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
創生学部	創生学修プログラム	A	C	C	C	○	C	C	C	C	B	B	B	B	B	B	B	B

A：学修創生型マイナー履修者は教育基盤機構アカデミック・アドバイザー等と相談の上、マイナー・プログラムの選択を
 B：修了申請の際、学位プログラムが言語文化学プログラムの学生、および創生学部において領域学修科目パッケージと
 C：創生学部生は選択した領域学修科目パッケージと分野が重複するマイナー・プログラムは修了認定申請ができない

行う。
 して言語文化学パッケージを選択している学生は、マイナー・プログラム代表教員に了承を得る。
 め、教育基盤機構アカデミック・アドバイザー等と相談の上、マイナー・プログラムの選択を行う。

新潟大学マイナー・プログラムに関する規則

(趣旨)

第1条 この規則は、新潟大学におけるマイナー・プログラムに関し、必要な事項を定めるものとする。

(目的)

第2条 マイナー・プログラムは、学問分野を超えた複眼的な視点を持ちながら多様な他者と協働して課題解決のために活躍できる人材を育成することを目的とする。

(マイナー・プログラムの種類)

第3条 マイナー・プログラムは、編成方法等により、学修創生型マイナー及びパッケージ型マイナーに区分する。

- 2 学修創生型マイナーは、分野横断デザインの履修を通して、学生自らがマイナー・プログラムの名称、到達目標、履修計画等（以下「マイナー学修デザイン」という。）を設定した上で、マイナー学修デザインに応じた授業科目を履修し、分野横断リフレクションの履修を通して、学生自らがマイナー・プログラムとしての学修成果を示し、マイナー・プログラム担当教員から認定を受けるものをいう。
- 3 パッケージ型マイナーは、新潟大学の教育理念に基づき、予めマイナー・プログラムを担当する教員集団が設定する学修内容や到達目標に則り作成された授業科目のリスト（以下「パッケージ」という。）から、学生自らが学修を希望するパッケージを選択し、履修を行うものをいう。

(対象学生)

第4条 マイナー・プログラムの履修対象は、本学の学部 に在学する学生とする。ただし、パッケージ型マイナーの場合、各パッケージにおいて履修資格を定めることができるものとする。

(授業科目、履修方法等)

第5条 マイナー・プログラムにおいて開設する授業科目、履修方法等は、教育基盤機構（以下「機構」という。）が公示するマイナー・プログラム一覧に定める。

(履修申請)

第6条 マイナー・プログラムの履修を希望する者は、所定の期日までに学務情報システムから希望するマイナー・プログラムを登録するものとする。

(修了認定要件)

第7条 学修創生型マイナーの修了認定を希望する学生は、次に掲げる要件をすべて満たすものとする。

- (1) 分野横断デザイン及び分野横断リフレクションの単位を修得していること。
 - (2) その他機構が公示する授業科目を12単位以上修得していること。
 - (3) 前2号の修得単位の合計が14単位以上であること。
- 2 パッケージ型マイナーの修了認定を希望する学生は、次に掲げる要件をすべて満たすものとする。
- (1) 当該パッケージに示された授業科目を12単位以上修得していること。
 - (2) その他当該パッケージが定める修了要件をすべて満たしていること。

(修了認定申請)

第8条 マイナー・プログラムの修了認定を希望する学生は、第2年次第2学期以降の所定の期日までに修了認定に係る申請を行わなければならない。

(修了認定)

第9条 マイナー・プログラムの修了認定は、各学期末において、教育基盤機構運営会議の議を経て、教育基盤機構長（以下「機構長」という。）が行う。

2 機構長は、前項により修了認定を行ったときは、大学教育委員会に報告するものとする。

(マイナー・プログラムの修了証)

第10条 機構長は、前条に基づきマイナー・プログラムの修了認定を受けた者にマイナー・プログラム修了証（別記様式1）を授与する。

(パッケージ型マイナーの開設、変更及び廃止)

第11条 パッケージ型マイナーを開設し、変更し又は廃止しようとするパッケージ型マイナー代表教員は、別に定めるところにより機構長に開設、変更又は廃止の審査を申請するものとする。

2 機構長は、前項の申請があったときは、パッケージ型マイナー審査委員会（以下「審査委員会」という。）において審査し、その審査結果について、教育基盤機構運営会議の議を経て決定するものとする。

(パッケージ型マイナー審査委員会)

第12条 審査委員会は、次に掲げる委員をもって組織する。

- (1) 機構長
 - (2) 教育基盤機構未来教育推進コア長
 - (3) 教育基盤機構未来教育推進コア副コア長のうち機構長が指名した者
 - (4) 教育基盤機構専任教員のうち機構長が指名した者
 - (5) その他機構長が必要と認めた者
- 2 審査委員会に委員長及び副委員長を置く。
- 3 委員長は、第1項第1号の委員をもって充てる。
- 4 副委員長は、第1項第2号の委員をもって充てる。
- 5 委員長は、委員会を招集し、その議長となる。
- 6 委員会は、委員の過半数の出席により成立する。
- 7 議事は、出席委員の過半数をもって決し、可否同数のときは、議長の決するところによる。
- 8 委員長が必要と認めたときは、委員会に委員以外の者の出席を求め、説明又は意見を聴くことができる。

(運営)

第13条 マイナー・プログラムの運営は、教育基盤機構未来教育推進コアにおいて行う。

(雑則)

第14条 この規則に定めるもののほか、マイナー・プログラムに関し必要な事項は、別に定める。

附 則

- 1 この規則は、令和6年4月1日から施行する。
- 2 新潟大学副専攻の認定に関する規則（平成17年規則第7号）、新潟大学におけるマイナー学修パッケージに関する要項（令和4年9月29日学長裁定）及び新潟大学における学修創生型マイナーに関する要項（令和5年10月30日学長裁定）は、廃止する。
- 3 令和5年度以前に入学した学生の副専攻の認定、マイナー学修パッケージ及び学修創生型マイナーに関する取扱いについては、なお従前の例による。ただし、マイナー学修パッケージ及び学修創生型マイナーに係る修了証については、別記様式1を用いるものとする。

附 則

この規則は、令和7年4月1日から施行する。

別記様式1（第10条関係）

マイナー・プログラム修了証	
〇〇学部〇〇学科・課程	
氏 名	
年 月 日生	
本学において、マイナー・プログラム「(名 称)」を修了したことを証する。	
年 月 日	
新潟大学教育基盤機構長	
〇 〇 〇 〇 印	

問い合わせ先・案内図

学務部教務課

総合教育研究棟D棟2階

TEL : 025-262-6309

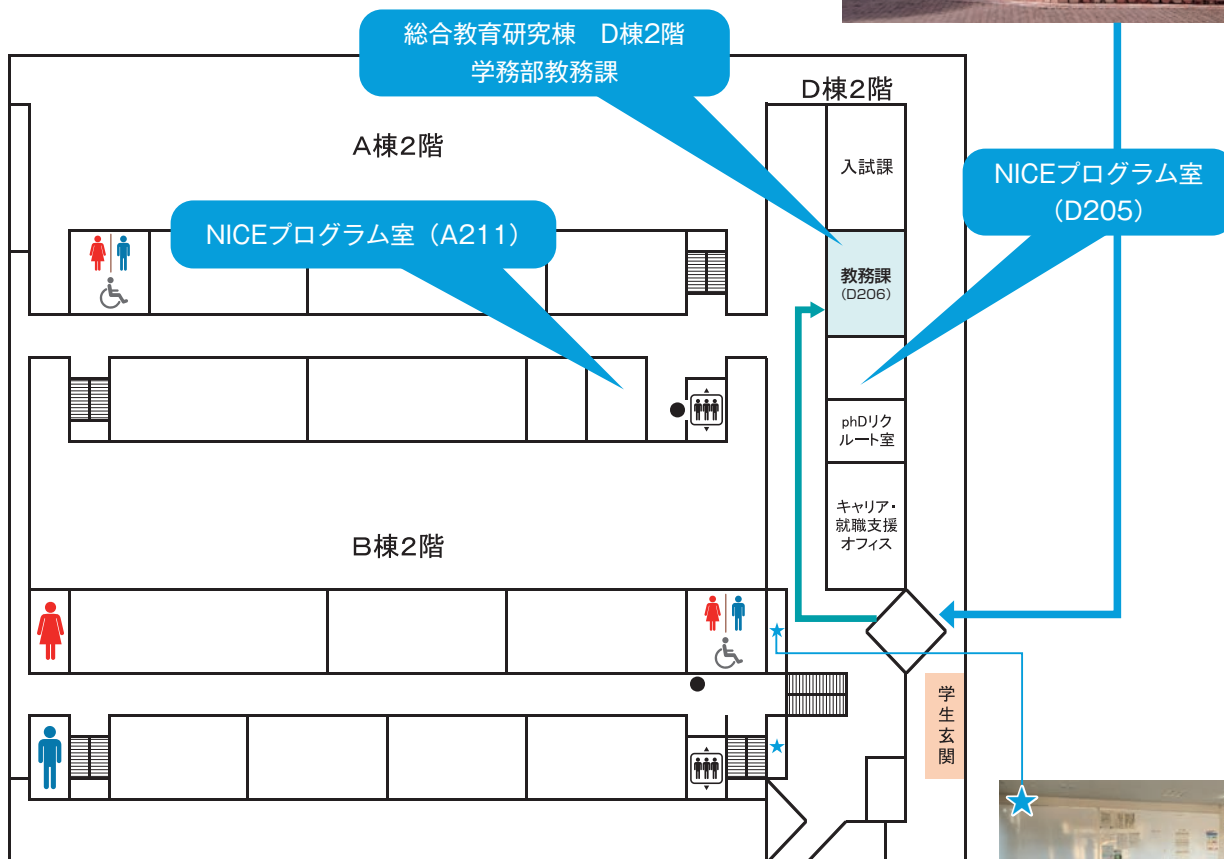
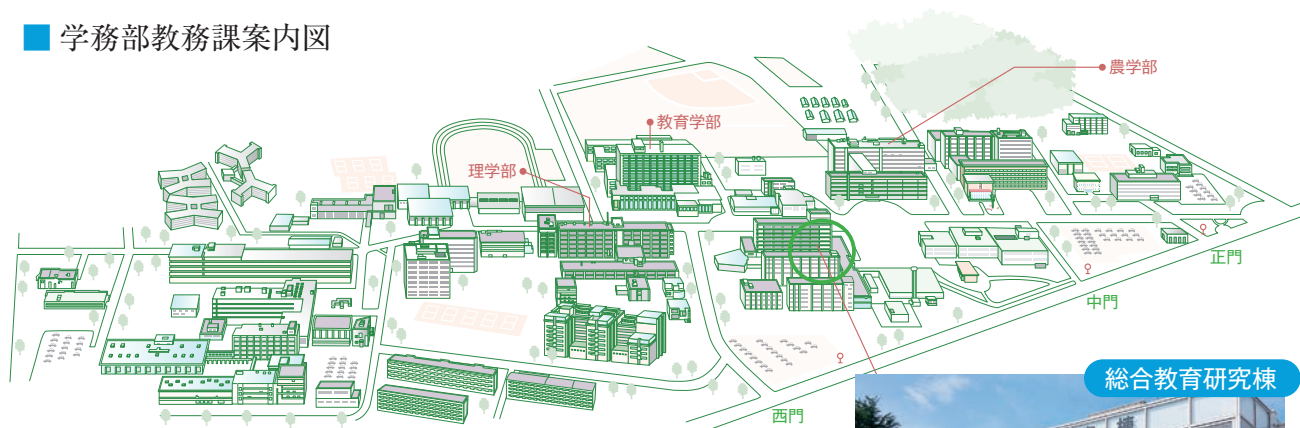
MAIL : kyoumu-minor@ge.niigata-u.ac.jp

NICEプログラムについて、
くわしくはこちらをご覧ください。

<https://www.iess.niigata-u.ac.jp/niceprogram/>



学務部教務課案内図



★学務部教務課掲示板：総合教育研究棟B棟 2階 学生玄関正面に設置



問い合わせ先

〒950-2181 新潟市西区五十嵐2の町8050番地

新潟大学 学務部 教務課

TEL (025)262-6309

MAIL kyoumu-minor@ge.niigata-u.ac.jp

Niigata University Minor Programs

2025